

# 橋本の歴史

ガイド・ブック



橋本の歴史を知る会

## 「橋本の歴史 ガイドブック」発刊にあたって

年々発展していく橋本。マンションの建設等で他地区から移住される方が多くなり、人口がどんどん増えています。

昔から住んでいる人達にも、新しく橋本の住民となった人達にも、少しでも橋本のことを知ってほしい、そして橋本に愛着を持ってほしい、そんな思いから「橋本の歴史を知る会」を発足させ、20人の会員で制作したのが、「橋本の文化財 おさんぼマップ」でした。

この「おさんぼマップ」は、相模原市の地域活性化事業交付金により作成し、1万5千部印刷して、自治会を通じて配布しました。

以来、小学校や各種団体から「おさんぼマップ」のコース説明と案内を依頼されることが増えました。また個人でこの「おさんぼマップ」を片手にコースを歩かれる方が多くなり、いまま少し詳細な説明がほしいとの要望をいただくこともありました。

そこで会では、会員の一人である阿部明子さんが作成した3冊のテキストをもとに、さらに詳しい説明と資料を加え「橋本の歴史 ガイドブック」を制作しました。

どうか、このガイドブックを活用して、先人たちの努力や絆を知り、より橋本を知っていただき、「住んでよかった 橋本」と思っていただければ幸いと存じます。

平成27年2月

橋本の歴史を知る会

代表 関根和行



橋本遺跡から出土した土器の文様

# 目次

発刊にあたって

## 第1章 橋本の歴史

1	地球誕生45億年	1
2	相模川の流れ50万年	2
3	日本人はどこから来たのか？	3
4	縄文・弥生時代	4
	国指定文化財	
5	橋本に人が住み始めた！	6
	縄文時代の生活・弥生時代の生活	
6	古墳時代と相模原	8
7	飛鳥・奈良・平安時代（古代）	9
	奈良時代・奈良時代の相模原・平安時代	
8	鎌倉・室町・戦国時代（中世）	12
	鎌倉時代・相模原の横山党・鎌倉幕府の滅亡	
	鎌倉幕府の滅亡の理由・室町幕府・室町時代	
	戦国時代	
9	江戸時代	16
10	橋本村・小山村の誕生	17
11	相模野の開発と耕地拡張	18
	開発地図・小山村絵図	
12	相模原の軍都計画	21

## 第2章 歩いて知るわが街

1	橋本北地区コース	22
---	----------	----

橋本駅—橋本駅ゆかりの碑—橋本七夕通り—照手姫モニュメント  
—神明大神宮・大鷲神社—香福寺—徳本念仏塔—秋葉大権現  
—瑞光寺—牛久保家長屋門—橋本宿—両国橋—境川—公民館

・照手姫伝説	28
・旭小学校の命名エピソード	35
・牛久保家の持ち上げ観音	36
・橋本宿の地図	38
・橋本の郵便局の始まり	40
・昭和3年の電話加入者一覧表	41
・相澤日記	42



橋本遺跡から出土した土器の文様

2 宮上地区コース ..... 45

原清長屋門—地藏菩薩(子育て地藏)—蓮乗院—庚申塔—うま坂  
—まつば坂—天縛皇神社—二十三夜様・精進場

- ・原清兵衛による清兵衛新田の開発 ..... 46
- ・相模原開拓略年表 ..... 48
- ・市指定有形文化財「順席」の大発見 ..... 52
- ・地名余話 (精進場) ..... 59
- ・宮上小学校 ..... 60

3 橋本南地区コース ..... 61

相原高校—橋本変電所—棒杭・大山道—常慶くぼ—開拓記念碑  
—工機部跡地—供養塚

- ・旭中学校 ..... 69
- ・橋本小学校 ..... 70
- ・「かなりや児童館」から「橋本こどもセンター」へ ..... 71
- ・相模原協同病院 ..... 73
- ・橋本競馬場 ..... 74
- ・やすらぎの道立体 ..... 75

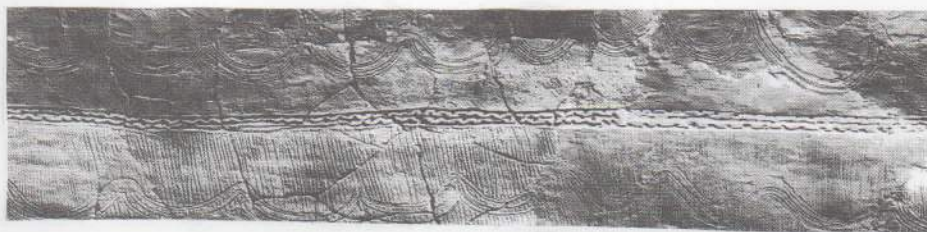
### 第3章 地図で見る橋本の変遷

- ・明治初期の橋本 ..... 77
- ・明治15年の橋本 ..... 78
- ・大正10年の橋本 ..... 79
- ・昭和14年の橋本 (軍都計画による「相模原都市建設区画整理事業予定図」) ..... 80
- ・昭和29年の橋本 ..... 81
- ・昭和58年の橋本 ..... 82

### 資料編

- 1 昭和初期のこどもの暮らしと遊び ..... 83
- 2 橋本周辺の年表 ..... 85

● 表紙絵：吉川啓示画集「相模原百景」



橋本遺跡から出土した土器の文様



「ミウル」

# 第1章 橋本の歴史



昭和初期の橋本駅

目で見る相模原の100年（郷土出版社）

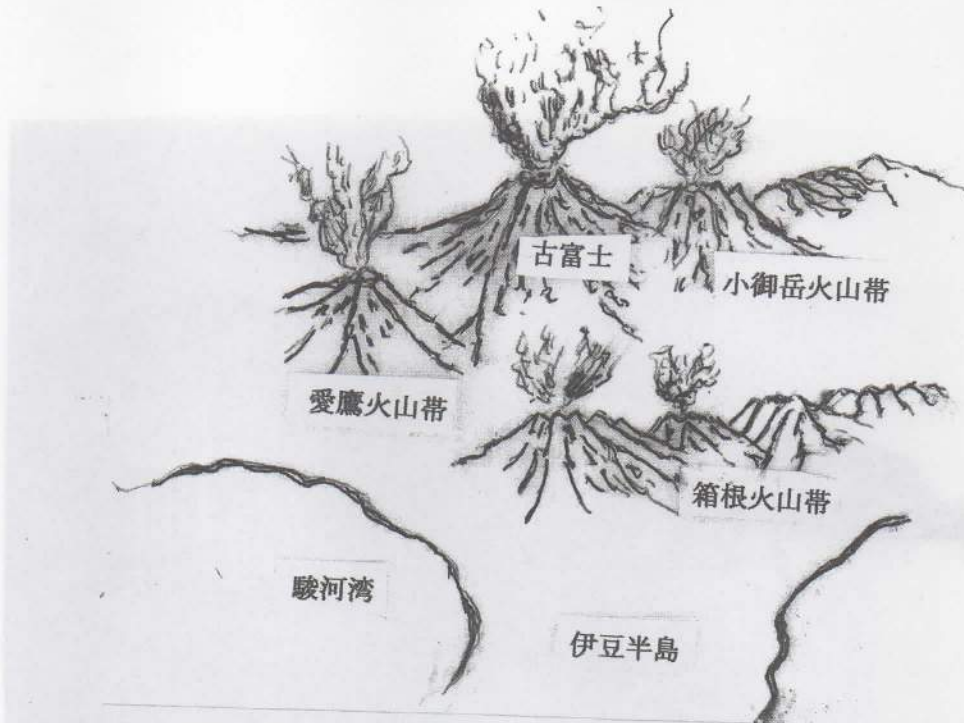
# 1 地球誕生45億年

地球ができたのは、45億年前だと言われています。

日本各地で、山々が噴火して日本の地形は変化しておりました。

およそ、70万年前ごろから愛鷹火山、小御岳火山、箱根火山が活動していましたが10万年前ごろに小御岳の南側を突き抜けて火山が噴火しました。この噴火した山を古富士といい、関東一円に長い間火山灰で覆いました。この火山灰が堆積したものを関東ローム層と言います。それから、また、約1万年前にこの古富士のところから新しい噴火が始まり、この噴火した山を新富士（現在の富士山）と呼び、これも多くの火山灰が関東一円を覆いました。この時の火山灰が、相模原の現在の表面にある黒土です。

この新富士は、記録では、781年から1707年の宝永山の噴火まで13回の大きな噴火があったとのこと。



## 氷河期

24億年前～22億年前  
7億6000万年前～7億年前  
6億2000万年前～5億5000万年前  
4億5000万年前～4億2000万年前  
3億6000万年前～2億6000万年前  
300万年前～

ヒューロニアン氷河期  
スターチアン氷河期  
マリノアン氷河期  
アンデス・サハラ氷河期  
カール氷河期  
新生代氷河期

## 2 相模川の流れ 50 万年

およそ50万年前に、相模川は、箱根山塊、丹沢山塊のほうから御殿峠を通り多摩丘陵に沿って稲毛方面に流れていました。洪水のたびごとに流路をかえて、約1万年前以降は、ほぼ現在の位置を流れるようになりました。

相模川が、現在の境川の付近一帯に流れていた証拠に、境川の川底に大きな石が転がっていますが、これらの石は、丹沢山地の岩石も含まれており、昔、相模川が運んだ石であることがわかります。

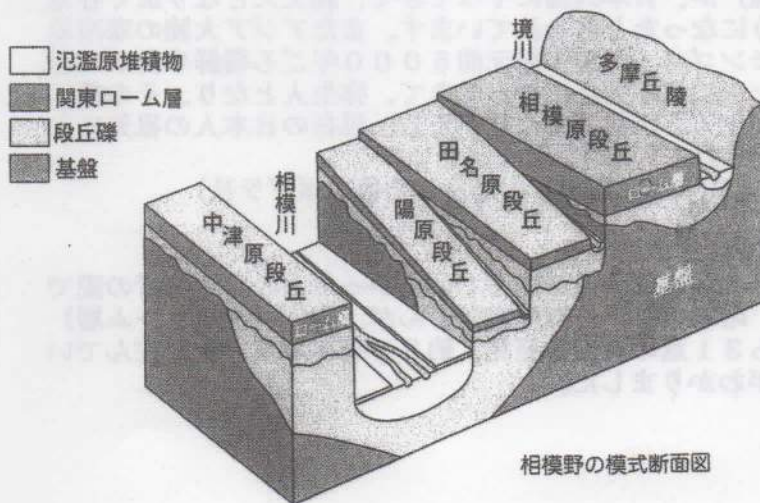
広く流れた

約7～5万年前の相模川



相模川は、流路を変えながら、時には土地を削り、時には土砂を堆積したりしました。これと同時に、気候の激しい変動により相模湾の海水面が上昇したり、下降したり、また、土地が隆起したりして相模原段丘、田名原段丘、陽原段丘が形成されてきました。

(「境川流域ガイド」・相模原市・平成22年発行)



相模野の模式断面図

### 3 日本人は、どこから来たのか？



7～2万年前の日本列島は、アジア大陸と続いており、ナウマン象、シカなど多くの動物が日本に渡ってきました。大陸にいた人々も、この動物たちを追って渡ってきました。一説では、中国南部やアジア南部に暮らしていた古モンゴロイド(蒙古系人種)が、日本列島にやってきて、縄文人となり広く各地に住むようになったと言われています。またアジア大陸の寒冷地にいた新モンゴロイドが、紀元前5000年ごろ朝鮮半島から稲作技術とともに日本列島にやってきて、弥生人となり、その後、縄文人と弥生人とが混血をくりかえし、現在の日本人の祖先になったと考えられています。

(「古代日本の大常識」山岸良二監修・ポプラ社)

#### 岩宿遺跡とは

関東ローム層には、人が住んでいなかったとの考古学者の説でしたが、昭和21年に相澤忠洋さんが、赤土(関東ローム層)の崖から31点の石器を発見、約3万年前から人々が住んでいたことがわかりました。



## 4 縄文・弥生時代

縄文時代には、初めて土器を使用するようになった時代です。そのころになると、火山灰（ローム層）の堆積も終わり、植物が繁茂し、草原や樹林地が広がりました。

境川のほとりで人々が生活を始めたのは、今からおよそ3万年前の旧石器時代と言われていますが、この頃は、狩りや、木の実をとり、水のある川沿いに移動をして生活をしていました。

しかし、縄文時代になると人々は食糧の得やすい場所で、日当たりがよく、飲み水が確保でき、さらに見晴らしのよい段丘に住居を構えました。

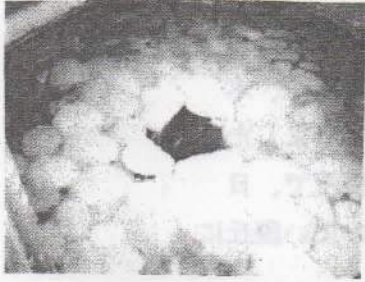
現在、遺跡の数は多くありますが、約4,500年前の縄文時代中期のものが圧倒的に多くあります。



旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代
原始時代		古代時代	
～約2万年前	約1万年前	約2500年前	約1700年前
日本列島に人が 住み始める	約1万3千年前 竪穴住居で定住 する。縄文土器	水田での稲作 青銅器、鉄器を 使う。弥生土器	3世紀後半から古墳 づくりが始まる

1、寸沢嵐石器時代遺跡

国指定年月日 昭和5年11月19日  
所在 相模原市緑区寸沢嵐568-2



概要 昭和3年(1928)7月、畑の耕作中に石が敷かれている場所が発見され、長谷川一郎氏による発掘調査で敷石住居跡であることが確認されました。この遺跡は、石器時代のものとして、考古学研究史の上で重要な遺跡です。

2、川尻石器時代遺跡

国指定年月日 昭和6年7月31日～以降追加指定あり  
所在 相模原市緑区谷ヶ原2丁目788-2



概要 特に縄文時代中期から後期(約5,500～3,500年前)の大きな集落で、約2,3ヘクタールが国の指定。大正時代から調査されており、多くの遺物とともに、敷石住居跡、配石遺構、配石墓群など礫石を多様した遺構があります。80軒以上の住居跡が確認されています。

3、勝坂遺跡

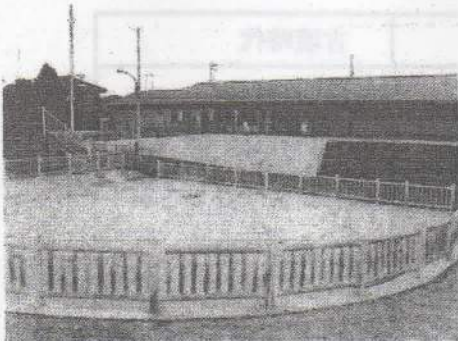
国指定年月日 昭和49年7月2日～以降追加指定あり  
所在 相模原市南区磯部1780



概要 縄文時代中期(約5,000年前)の大集落跡です。大正15年(1926)考古学者大山柏氏による発掘調査で発見された。縄文土器は、立体的な装飾の文様や顔面把手などが学会の注目をあび、「勝坂式土器」として、縄文中期のめやすとされました。

4、田名向原遺跡

国指定年月日 平成11年1月28日  
所在 相模原市中央区田名塩田3-13



概要 区画整理事業に伴い平成9年に発掘調査が行われ、住居跡と推定される遺構が発見された。我が国最古といわれる後期旧石器時代(約20,000年前)の遺跡です。発見された石槍などは、長野県や伊豆、箱根などの黒曜石が使われており、当時、遠隔地との交流があったことがわかります。

# 5 橋本に 人が住みはじめた！

歴史の教科書

## 橋本遺跡

橋本遺跡は、元橋本町にあり、国道16号の八王子バイパス工事の昭和55年6月に発掘調査が開始されました。

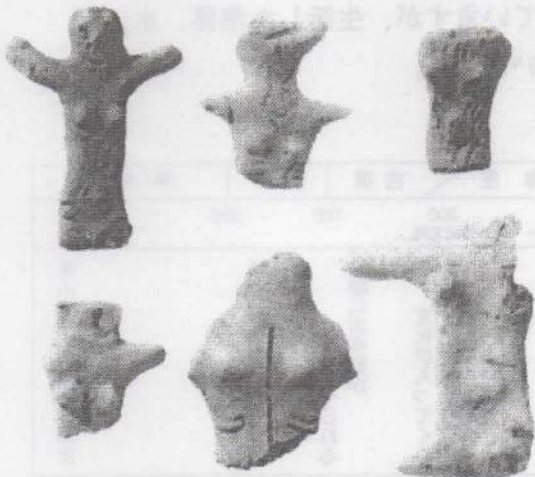
この調査で、約1万5000年前の先土器時代から縄文時代の土器や住居址などが確認されました。

この土器の中に、平成26年に市の指定有形文化財になった顔面、両足などの省略化、簡略化などの女性の土偶などがあります。

橋本遺跡からの出土品



橋本遺跡からの出土品



橋本遺跡から出土した土偶は、多摩丘陵など関東南西部に分布する地域性があり、橋本遺跡での発見に因んで「橋本土偶形式」とも呼ばれています。

この土偶は、祭祀を知るうえで学術的価値の高い考古資料です。



## 縄文時代の生活

縄文時代は、弥生時代まで約1万年の間  
 続き狩猟、植物採集を基盤として定住して  
 いました。

土器は、主として食糧の煮炊きや食料の  
 保存のために作られており、表面に網目の  
 模様がついているので、縄文式土器と言わ  
 れます。

また、土器の形や文様から、縄文時代を  
 一般に創期、早期、前期、中期、後期、晩  
 期の6期に区分されています。



## 弥生時代の生活

弥生時代は、水稻栽培による農耕が開始されました。また  
 この時代、鉄や青銅器の製作がされ、さらに紡織技術も広  
 まってきました。生活に必要な土器も縄文土器とことなり  
 単純化された土器（弥生式土器）になりました。

県内に弥生式文化が入ってきたのは、紀元前3世紀～2世  
 紀の前期末から中期後半です。

相模原からは、稲作耕作に適した土地が少ないため、遺跡  
 が、旧市内地区で上矢部和組遺跡や上溝三屋遺跡から土器  
 の破片が数点発見されてるにすぎない状況です。

津久井地区では、中野大沢遺跡、三ヶ木遺跡、鼠坂遺跡で  
 土器の破片が発見されていますが、生活した集落、水田等  
 の遺跡は、発見されていません。

旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	
(年代)	12,000	5,000	500 紀元前←	300 →紀元後	700	900
相模原に人が住み始める	勝坂など縄文中期の 文化が栄える	三ヶ木などに弥生時代の 文化が入ってくる	谷原に古墳群が つくられる	海老名に相模国分寺が つくられる	横山党が相模原に進出	

## 6 古墳時代と相模原

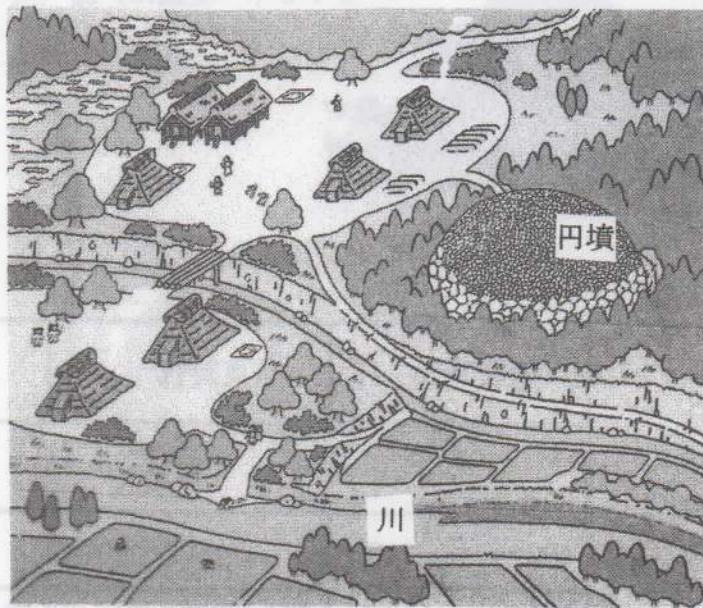
古墳時代は、3世紀半ばから7世紀末までの約400年間を一般的に指します。

古墳時代前の弥生時代には、稲作が行われていましたが、耕作する技術、土地の管理など多くの人が必要で、必然的に指導者リーダーの存在重要となり、村の形態ができ、また村と村の争いが生じ、この村を統一する有力者が現れ、それらが結びつくことで、大和地域（奈良県）の勢力が中心になり全国的な政治支配が確立されました。

この頃の有力者の墓が、古墳とといいます。

この古墳も、古墳時代の前期において、全国各地で前方後円墳として造営されています。後期には、小規模の円墳が多く見つかっています。これは、大きな権力を握る指導者だけでなく、村のリーダー層、豪族なども葬送にさいして、前方後円墳から石室や円墳を真似て小規模で、造営されたものだと考えられます。

市内では、7世紀前半に造られた谷原古墳群（田名塩田～当麻）に武器、装身具、などの副葬品が見つかっています。その他に川尻八幡宮境内に露出した石室があります。また久保沢の春林横穴墓群もあります。



古墳時代の生活環境イラスト

# 7 飛鳥・奈良・平安時代 (古代)

## 飛鳥時代

飛鳥時代は、32代天皇崇峻天皇の5年(592年)に暗殺され同年に33代推古天皇が即位した年から、都を平安京(京都)に和同3年(710年)に移すまでの118年間を飛鳥(奈良県明日香村)時代と言います。

この時代は、四世紀の中ごろから大和にいた豪族が、一つになり天皇を中心とした大和朝廷をつくりました。しかし、この豪族のなかで実権をもった蘇我氏が現れました。

聖徳太子は、これらの豪族をおさえ、国を治めるための仏教を中心として法隆寺をはじめ各地に寺を建立、天皇を中心とした国家体制の基礎ができた時代でもあります。

しかし、聖徳太子が死ぬと蘇我氏が権力をふるい横暴をきわめたので中大兄皇子は645年に蘇我氏を倒し、新たに政治を始めました。これを大化の改新と言います。

この新たな政治は、国制では、全国を郡と里に分け、土地は、国のものとする。(公地公民)、さらに税は、租、庸、調とし納税の義務を課しました。また全国の戸籍を作り国の統一を図りました。

### 主な出来事

- 604年 聖徳太子憲法17条制定
- 607年 小野妹子らを遣隋使とした
- 607年 法隆寺の建立
- 645年 中大兄皇らが蘇我入鹿を暗殺
- 670年 全国に戸籍(庚午年籍)



法隆寺

飛鳥時代	奈良時代	平安時代
古 代		
592~ 710	~~794	~~1185
593 聖徳太子摂政となる	710(和銅3年) 都をなら(平城京) に移す	794(延暦13年) 都を京都(平安京)に 移す

## 奈良時代

奈良時代は、和同3年(710年)に43代天皇<sup>げんめい</sup>元明天皇が即位し都を平城京(奈良)に移してから、50代桓武天皇が、延暦13年(794年)に都を平安京(京都)に移すまでの84年間の時期を言います。

奈良時代は、大化の改新の後、天皇を中心とする政治や全国支配の組織が確立され、また唐の文化が渡来し仏教の普及や文字などの文化が栄えました。

45代聖武天皇は、仏教の力で国を治めることを根本に、全国に国分寺の建立を命じ、都には、東大寺に大仏を造りました。また、日本の歴史を明確にするために古事記、日本書記の編纂をしました。

### 主な出来事

- 712年 古事記が完成
- 720年 日本書記の完成
- 749年 東大寺の完成
- 752年 東大寺大仏開眼
- 759年 鑑真が唐招提寺建立

### 相模原では

この時代、地方に国、郡、里と言う制度が設けられ、相模原市は、相模の国に属し、高倉郡、愛甲郡に属していました。

農民は、税を納めるほかに、都の警備にあたる「<sup>えいじ</sup>衛士」もあり期間は、1年ですが、北九州沿岸を守る「防人」で、期間は、3年でした。

天平10年(738年)相模国の防人230名が帰国したとの記録があります。



□奈良時代の相模国

## 平安時代

平安時代は、都を794年平安京（京都）に移してから、平氏が壇の浦で敗れ滅亡した1185年までの391年間を言います。

この時代は、国を守る軍制のなかで武士階級が登場し、実権を握り、その後平氏と源氏が保元の乱、平治の乱を経て、平氏が滅亡した時代であります。

一方文化面で、漢字をもとに生み出された平仮名、片仮名が使われるようになり、「源氏物語」「枕草子」など文学の花開いた時期でもあります。

また、中国に渡った僧、空海、最澄などにより新しい宗派ができ関連して多くの寺院が建てられました。

## 相模原では

相模原の台地に、9世紀から10世紀にかけて境川、相模川沿岸に集落が発展し、さらに水辺から離れた台地や山間にも集落が作られるようになりました。

東橋本の矢掛・久保遺跡では、34戸の竪穴住居跡と27棟の掘立柱の建築跡が発見されています。都では、はなやかな生活をしていましたが、地方の農民は竪穴住居に住み、重い税金にあえいでいたようです。

平安時代の後期には、武士団が全国各地に組織され、市域南部では、現在の藤沢市域にいた渋沢氏の領下にあつたと考えられます。市域の北部には、武蔵国の横山党（八王子）が、相原、小山、上矢部、田名などを支配下にしていました。

この頃、国、郡、里と言う組織のうち、里は、郷に改名され、この郷は、50戸で形成され、高座郡では、14郷あつたことが「倭名類聚鈔」に記録されています。



都の暮らし



農民の暮らし



# 8 鎌倉・室町・戦国時代 (中世)

## 鎌倉時代

源頼朝が、兵を挙げ文治2年(1185)に壇ノ浦で平氏を滅ぼして、建久3年(1192)鎌倉に幕府を開いてから、足利尊氏、新田義貞らにより、鎌倉幕府が元弘3年(1333)に滅ぼされるまでの141年を鎌倉時代と言います。

この時代、武蔵の国、相模の国には、武蔵七党と呼ばれる武士団が勢力を広げていました。このなかで、横山荘(八王子)を本拠地とする横山党が頼朝の配下であり活躍していました。

## 相模原の横山党

横山党には、粟飯原(藍原)、小山、野辺、田名、小倉、大貫など現在の地名となっている名字を持つ武士軍団がいて、原野に館を構え一族郎党を率いて周辺の土地を開発していました。



この横山党は、建保元年(1213)5月2日に北条義時(北条2代執権)の横暴に恨みを持つ和田義盛が乱を起した時(和田合戦)に味方したが敗戦。これにより横山党は、滅亡してしまいました。

(相模原市立中学校社会科副読本)

鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代
中世			
1192 頼朝、征夷大將軍となり、鎌倉に幕府を開く 1333 新田義貞ら幕府を倒す	1338 足利尊氏征夷大將軍 京都室町に幕府を開く	1573 足利義明信長に追放される	戦国大名の台頭 関東 北条 越後 上杉 甲斐信濃 武田 中国 毛利

## 鎌倉幕府の滅亡

治承4年(1180)に伊豆に流されていた源頼朝が兵を挙げたこのとき関東の多くの武士団が味方し、文治元年(1185)に壇の浦にて平家を滅ぼしました。頼朝は、建久3年(1192)征夷大將軍に任じられると鎌倉に幕府を開きました。

さらに頼朝は、各国に守護を、荘園には地頭を置いて領地の支配を強化しました。

その後、建久10年(1199)に51歳で突然死亡。源頼朝と北条政子の間に生まれた長男 頼家が建仁2年(1202)18歳で征夷大將軍となり二代目となったが病弱でもあり、実権を握っていた北条方の策略で、建仁3年(1203)伊豆に修善寺に流され、さらに翌年北条の手兵に殺害されてしまいました。

次いで次男の実朝が三代目の征夷大將軍になったが、承久元年(1219)27歳のとき、頼家の子公暁(宮司)によって、鶴岡八幡宮の銀杏の木の傍で殺されてしまいました。

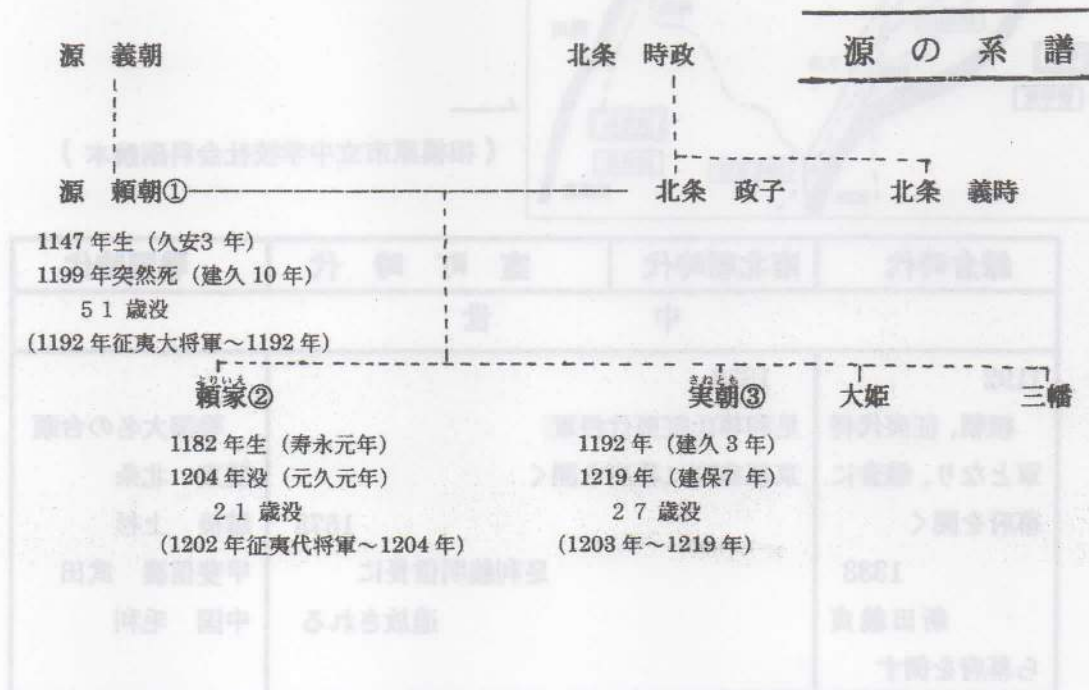
これにより、源は、三代で滅亡しました。滅亡したのち、四代目以降の將軍は、宮家などから將軍にして実際の権限は、執権職を北条家が持っていました。

初代執権は、政子の父時政がなり以降16代守時まで、頼朝が幕府を開いてから141年間鎌倉幕府が続きました。

### 鎌倉幕府滅亡の理由？

当時の天皇は、後醍醐天皇でした。天皇は、幕府の衰えを見て1324年と1331年の二度、倒幕の計画をしましたが、幕府に知られ、捕えられ隠岐に流されてしまいました。

その後、執権北条高時のとき楠木正成が、天皇を中心に政治を行なうべきと叫び、幕府軍と戦い、後醍醐天皇も隠岐を脱出し、足利尊氏と京都にあった六波羅探題を攻め落とし、関東では、新田義貞が、正慶2年(1333)に鎌倉に攻めて鎌倉幕府を滅ぼしました。



## 室町幕府

足利尊氏が、光明天皇（北朝）を擁立し征夷大將軍になった延元元年（1338）に京都の室町に幕府を開いたときから、15代將軍足利義昭が、天正元年（1573）に織田信長によって京都から追放されるまでの235年間を室町時代と言います。

足利尊氏が幕府を開いたとき、共に鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇は、吉野（奈良県）に南朝をひらきました。

この南北朝も元中9年（1392）に、3代將軍足利義満により統一されました。

### 室町時代

室町時代は、大きな飢饉が何度かあり、農民の一揆がありましたが、地方の武士による反幕運動がありました。

上杉禅秀の乱、永享の乱、結城の合戦、嘉吉の乱、享徳の乱があります。

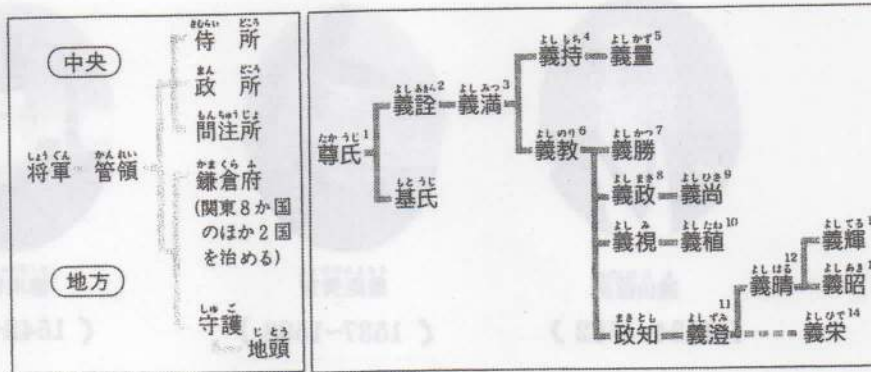
文化の面では、3代將軍足利義満のとき、応永4年（1394）に京都の北山に金閣寺を建て、8代將軍足利義政の時文明15年（1483）に銀閣寺が建てられるなど、さらに北山文化、東山文化と今日の茶の湯、能楽、書院造りなど文化の基礎が確立された時代でもあります。



金閣寺



銀閣寺



## 戦国時代

戦国時代の始期と終期については、諸説があります。

一般に応仁元年（1467）の応仁の乱から豊臣秀吉が天正18年（1590）に小田原の北条氏を討ち、東北の伊達政宗らが従ったので、全国を統一したことで、この期間を指します。

応仁の乱によって幕府の力が衰え、全国各地に実力で領地を得ようとする戦国大名が現れました。これらの戦国大名は、領地の拡大と天下を統一したいと近隣の大名との戦いを繰り返していました。

その戦国大名のなかでも織田信長で、新しい武器である鉄砲を採用し、永禄3年（1560）に桶狭間の戦いで今川義元を討ち、続いて永禄10年（1567）美濃（岐阜県）の斎藤氏を滅ぼし、元亀元年（1570）姉川の戦いで近江（滋賀県）の浅井氏と越前（福井県）の朝倉氏の連合軍を破りました。

しかし、天正10年（1582）家臣の明智光秀に京都の本能寺にて討たれ亡くなりました。

豊臣秀吉が、明智光秀をうち翌年天正11年（1583）に信長の家臣柴田勝家を討って信長の跡継ぎの地位をえました。

豊臣秀吉が1590年に小田原の北条氏を討って全国の統一をなし遂げたが、慶長3年（1598）に病死をし、豊臣秀吉の天下は、15年の期間でありました。

その後、慶長5年（1600）に関ヶ原の戦いがあり、元和元年（1615）に大阪の陣にて、秀頼（28歳）、淀君（49歳）が没し豊臣氏が滅亡しました。



織田信長

( 1534~1582 )



豊臣秀吉

( 1537~1598 )



徳川家康

( 1542~1616 )

# 9 江戸時代

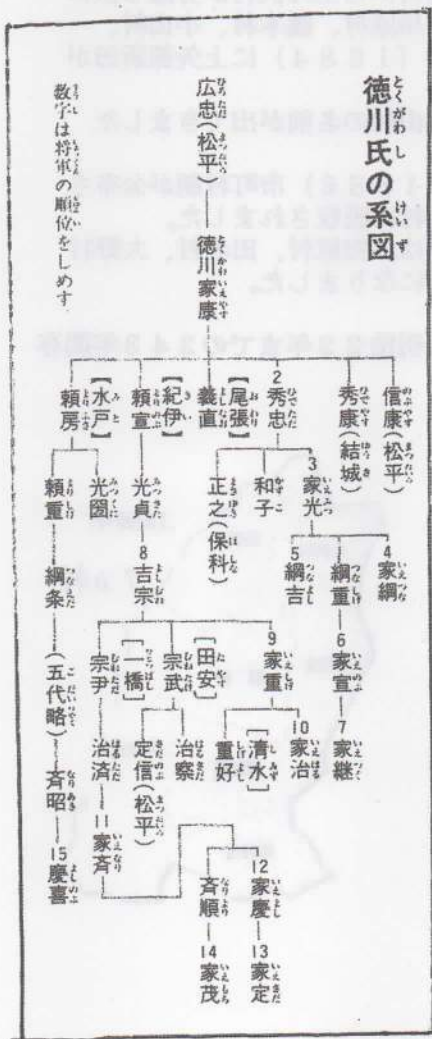
徳川家康は、小田原城攻めの功績により関東8か国を、豊臣秀吉から与えられ、天正18年(1590)に江戸城を本拠地と決めました。

それから1603年に征夷大將軍に江戸に幕府を開いたときから1867年大政奉還するまでの264年間を江戸時代と言います。

江戸時代の相模原は、相模川沿いや境川沿いに人が住んでいましたが、その他の土地は、広大な平地で雑木林や原野で、特に水利が悪いため、ほとんど人も住まず村と村の共有地(入会地)で、堆肥にするための落ち葉や、燃料にするための薪、屋根をふくための萱などを得る場として、利用されていました。

## 徳川家康

徳川家康は、1542年に三河(愛知県)の岡崎城主、松平広忠の長男として生まれ、幼名を竹千代といたしました。幼い時、織田氏や今川氏の人質として12年間くらししました。1560年の桶狭間で、織田信長によって今川義元が滅ぼされ、人質から解放され岡崎に帰り、三河の国の統一と周辺の領土を固めました。秀吉がが死んだあと、1600年に関ヶ原の戦いで勝利し、1603年に征夷大將軍になり、江戸に幕府を開きました。しかし、2年後に子どもの秀忠に將軍の位を譲てしまいました。これ以降、家康は、駿府城に住み実権を握っていました。1615年5月大阪の夏の陣で勝利し、完全に豊臣氏を滅ぼしました。1616年に75歳で没しました。



# 10 橋本村・小山村の誕生

安土・桃山	江戸	明治
1591	1603 徳川家康江戸城	1868 大政奉還
	1646 ←————— 橋本村・小山村 —————→	22

天正19年(1591)に徳川家康が、相模原の知行割(領地割)を命じたが、その時の記録に、境川(高座川)に沿って相原村、矢部村、淵野辺村、鞆野森村、上鶴間村の五か村、相模川に沿って大島村、田名村、当麻村、磯部村、上溝村、下溝村の七か村で、全部で12か村が記録されています。

このとき、境川沿いの村々は、徳川の直轄地、相模川沿いは、内藤清成、中段の上溝、下溝は、青山忠成の領地とされました。

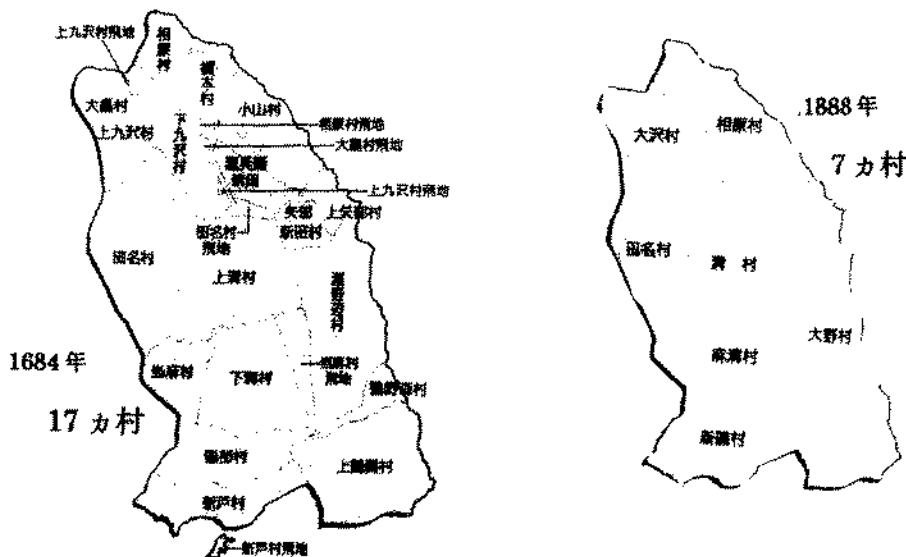
その後、慶長元年(1596)に大島村から上九沢村が分離し次に正保3年(1646)に、相原村が、上相原村、橋本村、小山村、下九沢村に分村され、さらに、貞享元年(1684)に上矢部新田が誕生して、17か村になりました。

正保3年に初めて、記録に橋本村、小山村の名前が出てきました

この橋本村、小山村は、明治21年(1888)市町村制が公布された翌22年に橋本村、小山村は、相原村に吸収されました。

このとき他の村々も合併されて相模原は、相原村、田名村、大野村、大沢村、溝村、麻溝村、新磯村の7か村になりました。

橋本村、小山村は、正保3年に誕生し明治22年までの243年間存続したことになります。



# 1 1 相模野の開発と耕地拡張

江戸時代の相模野は、広大な原野でした。

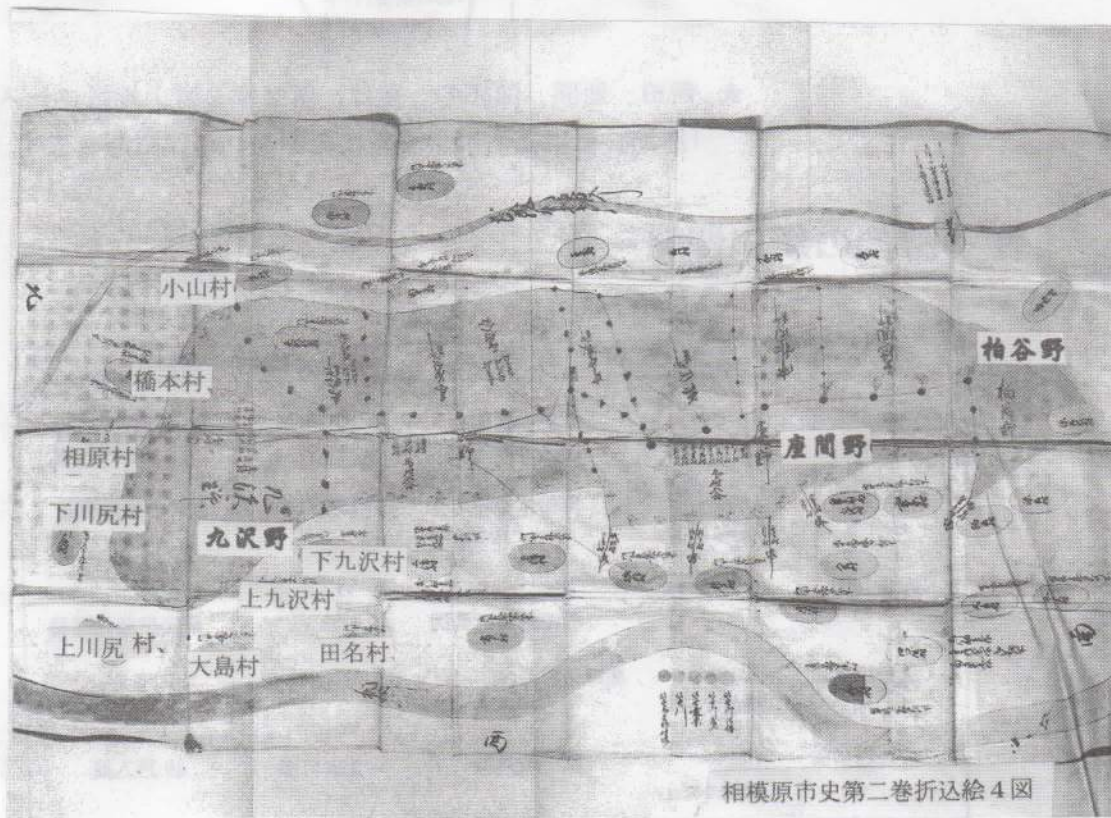
下の入会絵図は、元禄年間（1688~1703）に作成されたものです。この相模野と言われる台地は、北は橋本から南は座間まで続き、水利に乏しいため、人々が居住することができず、周辺の村の入会地（原野に入る権利の設定がある土地）として、利用されていました。

この入会地の雑草や樹木は、牛馬の飼料、堆肥、燃料などに使われていました。

入会地は、九沢野、溝野、矢部野、木曾野、鶺野森野、鶴間野中和野、谷口野、柏谷野、座間野の10区画に区分されていました。九沢野は、上九沢村、下九沢村、田名村、大島村、上川尻村、下川尻村、相原村、橋本村、小山村の9か村の入会となっていました。

農民たちは、戦国時代が終わり生活が安定すると、より豊かな暮らしをもとめ、生産に努め、この相模野の開発を果敢に行いました。

相模野周辺36か村入会絵図



相模原市史第二巻折込絵4図

## 相模野の開発地図



★ 新田、新開、開拓の一覧は、第2章2宮上地区コース「原清兵衛による清兵衛新田の開発」の稿にあります。

## 江戸時代の新田開発一覧

開拓名	開拓年次	開拓者	開拓面積	開拓者、入植者等
1 上矢部新田	1670～ 検地 1684	江戸の豪商 相模屋助右衛門	193 町歩 (192ha)	96名 通勤開墾 16戸 入植
2 大沼新田	1699～ 検地 1707	町田木曾村名主 治郎兵衛	175 町歩	288名 通勤開墾 9戸 入植
3 溝境新田	検地 1723	淵野辺村と 町田木曾村共同	109 町歩	310名 薪炭供給用開墾
4 淵野辺新田	1818～ 検地 1824	淵野辺村名主 平左衛門	36 町歩	101名 通勤開墾 16戸 入植
5 清兵衛新田	1843～ 検地 1856	原 清兵衛	206 町歩	49戸 入植

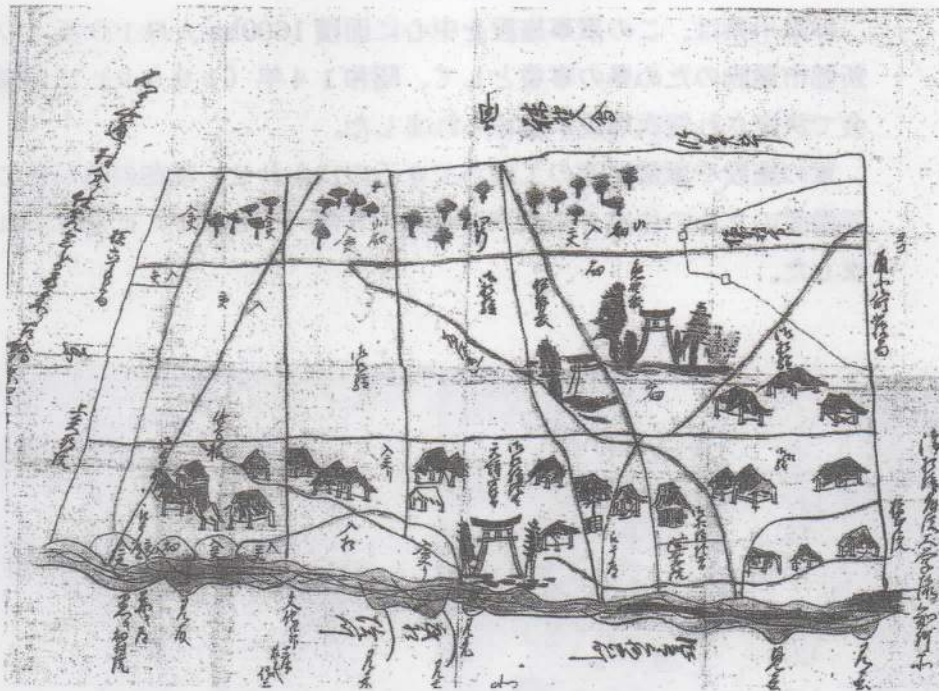


おやまむらえず

小山村絵図 文化4年(1807)手書き彩色

( 相模原市立博物館所蔵 )

関口英吉氏寄託資料



下に境川が描かれています。

== 1行メモ ==

鉄道の歴史

横浜線 1908年(明治41年)9月  
小田急電鉄 1927年(昭和2年)4月  
小田急江ノ島線 1927年(昭和4年)4月  
相模線 1931年(昭和6年)  
京王線 1990年(平成2年)

★相模湖・着工 1938年(昭和13年)  
完成 1947年(昭和22年)

★城山ダム・着工 1962年(昭和37年)  
完成 1965年(昭和40年)

## 1 2 相模原の軍都計画

旧相模原市内の道路は、街路樹と歩道があり整然としていていることを感じる方が多いと思いますが、これは、軍の施設を中心に都市を建設するため、内務省が、全国23地区を指定しましたが、そのなかでも相模原は、最大規模のものでした。

神奈川県は、この軍事施設を中心に面積1600ha人口10万人の新都市建設のため県の事業として、昭和14年(1939)に県議会で決定され逐次建設が進められました。

軍の施設や軍需関連の工場ができるのにあわせ、現在の星ヶ丘に労働者のための住宅627戸が昭和16年(1941)に建てられました。

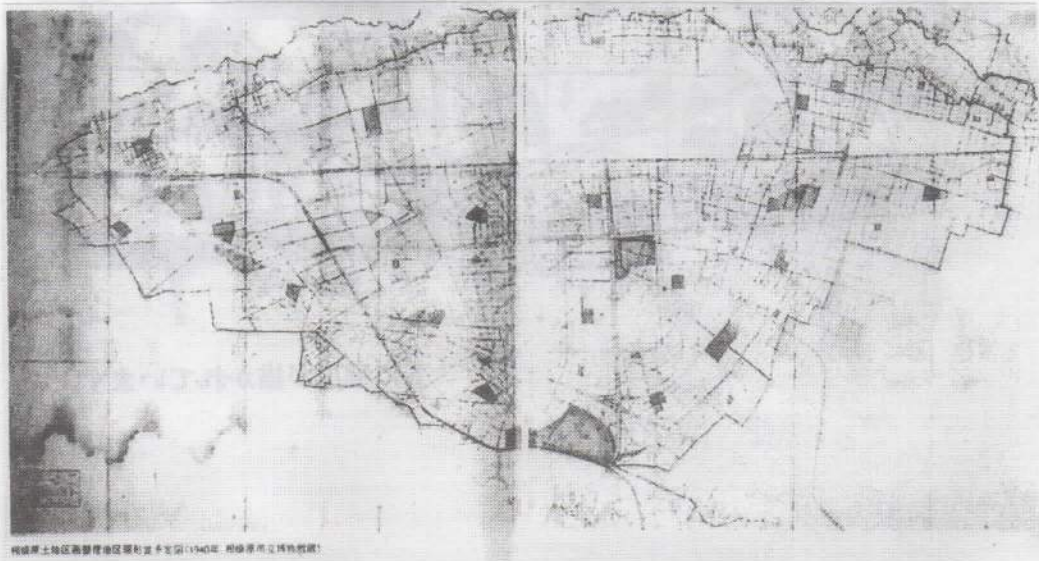


表153 昭和12~18年相模原地域の軍機関

年月日(昭和)	軍 機 関 名
12. 9. 30	陸軍士官学校移転
13. 3. 1	臨時東京第三陸軍病院開院式
13. 8. 13	陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所開所式
13. 10. 1	陸軍工科学校開校式
14. 1. 22	電信第一聯隊転営式
14. 5. 20	陸軍通信学校転営式
15. 3. 13	陸軍衛戍病院開院式
18.	陸軍機甲整備学校移転

### ★星ヶ丘の地名由来

陸軍のマークである星に  
ちなんで名づけられました。



## 第2章 歩いて知るわが街



昭和 32 年頃の橋本駅

相模原市今昔写真帖（郷土出版社）

橋本の文化財

# おさんぽマップ



緑区イメージキャラクター



「ミクル」

- 1 橋本駅
- 2 橋本駅ゆかりの碑
- 3 橋本七夕まつり (七夕通り)
- 4 照手姫モニュメント
- 5 神明大神宮
- 6 香福寺
- 7 徳本念仏塔 (市有形民俗文化財)
- 8 秋葉大権現 (火伏せの神様)

- 9 瑞光寺
- 10 牛久保家の長屋門
- 11 橋本宿
- 12 両国橋
- 13 境川

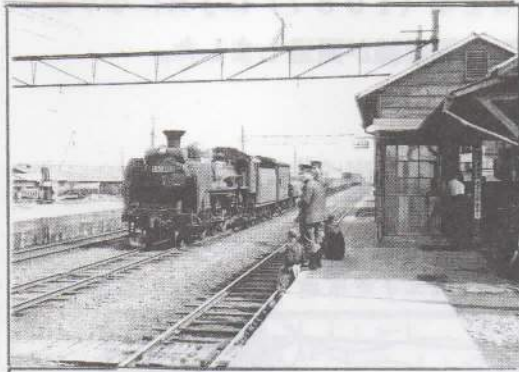
- 14 長屋門 (原清)
- 15 地藏菩薩 (子育て地藏)
- 16 蓮乗院
- 17 庚申塔 (金剛菩薩)
- 18 うま坂 (地名標柱)
- 19 馬頭観世音
- 20 まつば坂 (地名標柱)
- 21 天縛皇神社
- 22 二十三夜織

- 23 精進場 (地名標柱)
- 24 相原高校
- 25 橋本変電所
- 26 棒杭 (地名標柱)

- 27 棒杭 (不動明王)
- 28 常慶くぼ (地名標柱)
- 29 開拓記念碑
- 30 工機部等跡地 (区画整理竣工記念碑)
- 31 大산道 (地名標柱)
- 32 供養塚
- 33 旭小学校
- 34 元橋本遺跡
- 35 久保沢道 (地名標柱)
- 36 橋本公民館

## 《 1 橋本北地区コース 》

### 1 橋本駅・・・(数字は「橋本の文化財おさんぽマップ」に対応しています)



昭和31年の橋本駅に到着するSL牽引の貨物列車



現在のJR橋本駅北口

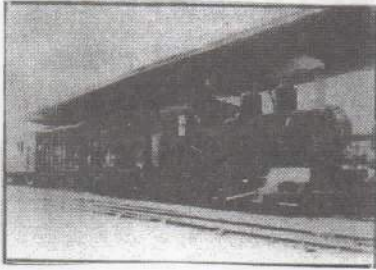


横浜線新型車両

橋本駅は、明治41年(1908)9月23日に民間の横浜鉄道(株)(現JR横浜線)の駅として開業しました。しかし、当初は橋本駅を作る予定はなく、東神奈川・小机・中山・長津田・原町田・淵野辺・相原・八王子の8駅での開業の予定でした。そのことを知った相原村村長や相澤安右衛門を中心とした地元の有志が、近隣の村々の協力を求めて鉄道会社や県庁に再三陳情書を提出し、駅設置負担金1,000円と駅用地8,000坪(約2,6ha)の提供をして、ようやく橋本駅の設置が決まったとのこと。横浜鉄道ができた背景には、当時の主要



## ＜相模線＞



昭和10年頃の相模線



現在の相模線

相模線は、大正10年（1921）相模鉄道（株）として、茅ヶ崎―寒川間で開通しました。しかし、開通当初から利用客が少なく、経営が苦しかったそうです。そのため建築資材としての相模川の砂利輸送が重要な業務となりました。（「砂利鉄」と呼ばれていたそうです。）大正12年（1923）の関東大震災の復興でも相模川の砂利は大いに活用され、その活況を背景に昭和6年（1931）に茅ヶ崎―橋本まで全線が開通しました。当時橋本駅北口で真田紐工場を経営していた和田家では、水量の多い井戸水（この和田家の井戸水は橋本の水道の始まりに重要な役割を果たしています。）相模線の蒸気機関車に提供していたそうです。（相模線はその後ガソリンカーを経て、ディーゼル車になり、現在は電化されています。）

昭和19年（1944）には相模線が東海道線と中央線を結ぶ線なので、軍事輸送用として重要とことから国に買収され、国鉄相模線になりました。戦後も貨物列車に相模川の砂利を満載して、東京や横浜方面に供給していましたが、昭和39年（1964）に川床低下の防止のため砂利採取が全面禁止になり、相模線の砂利運搬の役目は終わりました。

その後の相模線は運転本数が少ないため、駅で待っている人が疲れて思わずしゃがみこむことから、「しゃがみ線」とあだ名がつくほどでした。県内で唯一の単線のディーゼルカーが時には1両で走り、車掌

が革張りの輪のタブレットを駅で交換する風景が見られました。

昭和62年(1987)に国鉄民营化に伴い、JR相模線となり、平成3年(1991)には全線電化されて最新型のステンレスカーが走るようになりました。しかし、現在でも運転本数は他線と比べるとかなり少なく、単線で車両の乗り降りの時は「ボタンを押す」などのんびりした一面が残っています。沿線の住民が増えて、通勤通学の足としての需要が高まる中、複線化と運転本数の増加が今後の課題だと思われます。

### 《京王相模原線》



京王相模原線は、大正5年(1916)に調布一多摩川原駅(現京王多摩川駅)で多摩川の砂利運搬線として開業され、以後74年かけて少しずつ西へ延ばされ**平成2年(1990)3月に橋本まで開通**されました。(昭和49年—1974—に京王多摩センター駅が開業した後、ゴルフ場の地下にトンネルを掘る件や、橋本駅周辺の地権者との交渉などに時間がかかったため、なかなか建設が進みませんでした。)京王線が橋本まで開通したことで新宿を始め都心に出やすくなり、横浜線・相模線と共にこの京王相模原線の存在が、現在の橋本の急激な発展の一因となっていることは間違いありません。

### 2 橋本駅ゆかりの碑



橋本駅北口の線路沿いに相原方面に少し行った所に、「橋本駅設置に関するゆかりの処」と記された石碑が建っています。明治41年(1908)に橋本駅が開業する前に、駅の場所をどこにするか相談した時に、当時このあたりは



桑畑や麦畑ばかりで休むところがなかったので、この付近にあった大きな柿の木の下で相談したと言われています。なお、この石碑は昭和59年（1984）に建てられたもので、最初の記念碑は相澤家の庭にあります。（個人宅のため非公開です。）

### 3 橋本七夕まつり（七夕通り）



昭和30年代の七夕まつりの飾りつけ



現在の七夕まつり

「橋本七夕まつり」は昭和27年（1952）に橋本商店会が中心となり、戦後の地域の経済を盛り上げるために始まりました。駅周辺から七夕通りを中心に神明神社まで竹飾りがたくさん飾られ、毎年おおぜいの人で賑わいます。「橋本七夕まつり」は「上溝祭り」「相模原納涼花火大会」と共に相模原市の夏の三大祭りの1つに数えられています。

#### 4 照手姫モニュメント

「紫のもっとも淡き一群れに  
想いをのせん あじさいの花」

(俵 万智)



てるて姫のモニュメント



杜のホールの照手姫の像

七夕通りの三角地帯に、うっかりすると見逃してしまう、銀色で小ぶりなモニュメントがあります。これは上溝周辺に伝わる小栗判官と照手姫の悲恋にちなみ、市制50周年記念事業の1つの「照手姫フェスティバル」にちなんで作られたものです。このモニュメントには、昭和60年(1985)～平成元年(1989)に橋本高校の国語の教師をしていた歌人の俵万智さんの「紫のもっとも淡き一群れに 想いをのせん あじさいの花」という短歌が刻まれています。

また、ミウイ7階の杜のホール入口付近にも陶山定人氏作の照手姫のブロンズ像があります。

# 照手姫伝説

照手姫伝説は、日本の各地に伝えられており、相模原市と相模湖町にも個別に伝承されています。またそれぞれ独自に由来の地が伝わっています。相模原市の「日金沢」（ひがんだわ、彼岸沢とも書く）や相模湖町底沢の「美女谷」の地名の由来は、この「照手姫」に由来していると伝えられています。



## 相模原のおはなし

今から約700年前のこと。相模の国北部（現・相模原市）郡代であった横山将監（よこやましょうげん）の娘、照手姫は絶世の美女といわれ、その名は広く知られるところでした。

常陸の国（現・茨城県筑西市）の武将・小栗判官（おぐりはんがん）はこの話を聞き、横山の許しを得ぬまま強引に家来を引き連れて婿入りをしました。怒った横山は、毒酒を盛り小栗主従を皆殺しにし、わが子照手姫も同罪と牟輿（ろうごし）に入れて相模川の「おりからが淵」に流してしまいました。

家来の情けで一命をとりとめた照手姫は、人買いの手から手へと売られ美濃の国青墓（現・岐阜県大垣市）の遊女宿よるず屋に買い取られ『常陸小萩』と名を変えて下働きの水仕女（みずしめ）として苦役に耐えていました。

一方、地獄に落ちた小栗は閻魔大王の計らいで餓鬼阿弥（がきあみ）という醜い姿ながらこの世に戻されました。藤沢の遊行上人に助けられ「熊野（現・和歌山県田辺市）湯の峰の薬湯に入れて元の身体に蘇らせよ」という札を胸につけ、土車に乗せられ、多くの善男善女によって引きつがれ青墓のよるず屋の前に着きました。

照手姫は小栗とは知らず、亡き夫の供養にと五日の暇をもらい、懸命に土車を引きました。しかし、西近江の関寺まで来ると、この五日間も終わり泣く泣く仕事に戻りました。

餓鬼阿弥は再び多くの人々の手で「えいさらえい、えいさらえい」と熊野まで引かれ、湯の峰の薬湯に45日間つかって元の姿に蘇ることができました。

その後、照手姫の結神社（岐阜県安八町）への祈願によって、美濃で再会した二人は、常陸の国に戻り二代の長者として栄えたといわれています。

また、武名高き小栗は「正八幡荒人神」として、操（みさお）かたき照手姫は「契り結びの神」として美濃・墨俣の安八の地に祀られています。

この物語は、室町時代から説経・浄瑠璃・歌舞伎などで語り継がれています。

さがみてるて姫の会発行「短歌・俳句でつながるてるて姫伝説作品集」より抜粋して引用

## 相模湖のおはなし

昔、底沢（現在の相模湖町底沢）に「北面の武士」だったというお侍が奥方と共にやって来て暮らしていました。夫婦には観世音に願いをかけ授かった「照手」と名づけた気立ての優しい美しい娘がいました。しかし、両親が相次いでこの世を去ったので、照手姫はこの地を離れました。

同じ頃、常陸の国（茨城県）に、小栗城主小栗判官満重という文武に秀でた武士がいました。小栗満重は、謀反の企てがありと告げ口され、城攻をされ主従11人は商人に変装し、三河の国（愛知県）へ落ち延びようとしていました。その途中で相模の国（神奈川県）藤沢のあたりで、盗賊の家だとは知らずに横山太郎の家に宿をとりました。

横山太郎は、よい獲物なりと思いましたが、満重が人を食い殺す荒馬の「鬼鹿毛」を乗り回すのを見て、妓女（ぎじょ）を集め酒にムン毒を混ぜて飲ませて殺そうとたくらみました。その妓女の中に照手姫がいました。

照手姫は、密かにこのことを満重に告げましたが、満重は唇に猛毒が触れただけで息が絶え、即死した10人の家来と共に衣服・財物をすべて奪われ死体は上野が原へ放棄されました。

その夜、遊行大空上人は、夢の中で、毒殺された小栗満重が生き返ることを閻魔大王の使者から告げられました。お告げにより小栗満重を土車で紀伊の国（和歌山県）へ送り、熊野本宮の湯の峰温泉に入れ快癒しました。快復した小栗満重は、疑いが晴れ常陸の国に帰り、京都の命を受けて横山一族を討ち取りました。

一方、照手姫は横山の家を逃れ武蔵の国金沢（横浜市金沢）へ向かいましたが、追手に捕らえられ、侍従川に投げ込まれました。照手姫は一心に観世音に念じ救い出されました。

これを見ていた野島崎（房総半島の突端）の漁夫は、お世話しようと家に連れ帰りました。しかし、漁夫の妻は照手姫のあまりの美しさにねたみ殺そうとしましたが、観世音が現れたためにそれができず、人買に渡してしまいました。

照手姫は、美濃の国（岐阜県）青墓で辛く悲しい日々を送っていましたが、照手姫を探し歩いていた小栗満重と会うことができ、共に幸せに暮らすことができました。

中里利夫氏より寄せられた郷土民話「小栗判官照手姫」より抜粋して引用



## ◀朝日館跡▶



朝日館（昭和30年代）

朝日館は、大正8年（1919）～昭和46年（1971）までの52年間、七夕通りで人々に親しまれた映画館です。（時には芝居興業もありました）当時の映画は雨が降っているような見づらいもので、上映中に何度もフィルムが切れ、つなぎ終わるまで客が待たされることもよくあったそうです。「鞍馬天狗」「裕次郎シリーズ」「若大将シリーズ」などが人気だったとのこと。跡地は鮮魚店の後、現在は美容室になっています。

## 5 神明大神宮・大鷲（おおとり）神社



神明大神宮本社



大鷲神社

永禄12年（1569）に創建された神明大神宮は古くから「お伊勢の森」と呼ばれ、伊勢神宮にお参りに行く人は行く前に旅の安全を祈り、帰ってからは無事を報告したそうです。祭神は天照皇大神で、以前は、樹齢400年を超す松が生い茂り、昼なお暗い神域でした。

しかし昭和34年（1959）の伊勢湾台風などで松が枯れてしまいました。境内には、他に学問の神様の天満宮や八坂神社、大鷲（おおとり）神社もあります。大鷲神社は昭和46年（1971）に商売繁盛を願う商店街の人々によって勧請されました。毎年11月の酉の日には手作りのあんどんが飾られることから、「あんどん祭り」とも言われています。

## 6 香福寺



香福寺本堂



鐘楼



山門

香福寺は臨済宗建長寺派の寺院で、山号を橋本山といい、ご本尊は地藏菩薩です。開山は応永8年頃（1400年くらい）で、庭には樹齢400年の立派な高野槇の木（市指定の保存樹木）があります。地藏菩薩は33年に一度開帳されますが、最近では2005年に開帳されましたので、次の開帳は2038年になります。山門は珍しい四脚門で、鐘楼と共に江戸時代後期に建てられた、市内の寺院では一番古いものです。

山門を出て国道16号線に向かうと、左側に昔、山王山と呼ばれていた所に、**徳本念仏塔・秋葉大権現・柳川先生の碑・常夜塔・出羽三山参詣供養塔・山王社**などの石碑が並んでいます。



## 7 徳本念仏塔



徳本念仏塔は、市内に13基あり、市が有形民俗文化財に指定しているものです。香福寺付近のこの塔は文政2年(1819)に建てられたもので、独特の書体で「南無阿弥陀仏」と彫られ、徳本の署名と⊕に似た特異な花押があります。徳本(とくほん)という僧が関東各地に念仏を広め、この地を訪れた際に信者達に求められてこの念仏塔を建てたと言われてい

## 8 秋葉大権現(火伏せの神様)



天保12年(1841)の4月のある夜に、境川沿いの民家から出火した火が街道沿いに28戸、80棟を焼き尽くして香福寺に迫りましたが、この秋葉大権現がある場所で急に風向きが北から東に変わって鎮火し、香福寺は延焼を免れることができました。それ以来秋葉様への信仰が従来にも増して深まったとのこと。

## 《常夜塔(光明台)》



この常夜塔は、秋葉大権現に献ぜられたもので、高さ170センチ、八段組みの凝ったもので、上から五段目の火袋の下の台の四面に十六弁の菊花が刻まれています。十六弁の菊花は天皇家の御紋章なので、戦前・戦中に何度も所管の中央官庁や学者が調査に来ましたが、取り除かれること

もなく、現在に至っています。なぜ天皇家のご紋章と同じ菊花が彫られているのかはいまだに謎です。

#### 《柳川先生の碑》



柳川宇之吉先生は、愛甲郡中津村（現愛川町）出身で、明治19年（1886）に蓮乗院の小山学校から瑞光寺の橋本学校へ転任し、その後大沢の九沢学校を経て、再び橋本学校へ赴任し、その後15年余り教師として、橋本の学校教育の振興や地域農業の改良発達のために村人と親交を重ねた人物です。その徳を称え、明治

43年（1910）に先生ゆかりの者や教え子ら94名がこの碑を秋葉大権現の碑の隣に建立しました。尚、橋本学校は明治30年に児童数が増えたため、瑞光寺からこの石碑の道をはさんで反対側の天神山と呼ばれた高台に移転しました。その後明治35年（1902）に旭小学校が現在の地に新築され、今に至っています。

#### 《出羽三山参詣供養塔》



この供養塔は天明元年（1781）に建立されたもので、江戸時代に全国的に三山講が組織されて人々が参詣した、出羽三山（羽黒山・月山・湯殿山）への参詣を供養する塔です。旧市内に同様の塔が11か所にあります。

#### 《山王社》



この山王社は、明治28年（1895）に建立されたものです。

山王の神は、現生利益を実現する靈感と呪力があるということで、信仰されていました。旧市内に4か所あります。



## 9 瑞光寺 (本然学舎)



瑞光寺本堂



本然学舎の碑 (左一表側、右一裏側)

瑞光寺は天正19年(1591)に開山された曹洞宗の寺院です。山号は橋本山、八王子の高乗寺の末寺でご本尊は釈迦如来です。境内には樹齢600年の立派な榎の古木があります。

江戸時代には寺子屋が開かれ、明治6年(1863)からは旭小学校の元になった「**本然学舎**」が開かれました。山門前には当時の生徒の子孫が建てた記念碑があります。この記念碑の裏には、最初に入学した6歳から12歳までの男子18名と女子2名の計20名の名前が記されています。

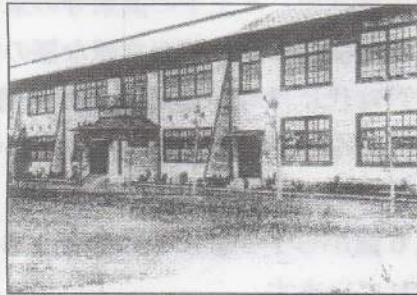
本然学舎は明治8年(1865) **橋本学校**となり、明治35年(1902)に**相原村立学校**となり、翌明治36年(1903)に校名を**相原村立旭尋常小学校**と改めた・・・と記されています。

記念碑に記されている生徒のうち、女の子は加藤タキさんと牛久保イトさんの2人だけです。当時、女の子は学校へ行くよりも家の手伝いをさせられていたためと思われます。また、橋本の歴史に深く関わった相澤安右衛門、相澤菊太郎兄弟の名前もあります。

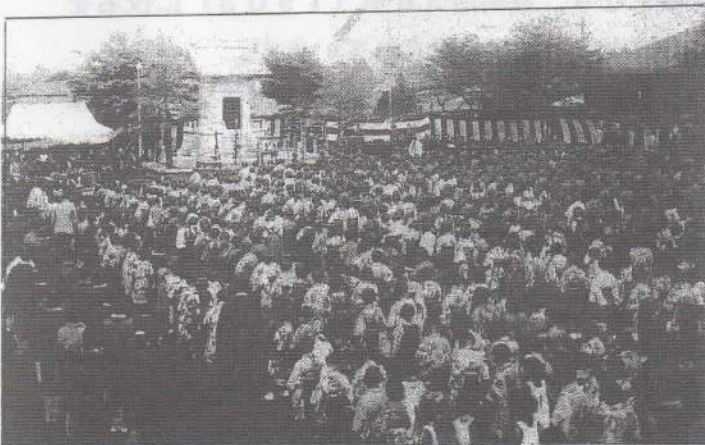
## 《旭小学校の命名エピソード》

明治35年(1902)それぞれの集落ごとにあった学校は、小学校令により統合され、現在の旭小学校の敷地に開校されることになりました。しかし、それまでの相原村立学校という校名をめぐる小山・橋本・相原の各村が譲らず、村会が何度も開かれました。翌明治36年(1903)の2月8日に「今夜はどうしても決めたい」と徹夜覚悟で村会を開きましたが、やはりまとまりませんでした。皆村役場で夜を明かし、翌朝窓を開けると一面の雪景色でした。太陽が雪に反射してきらきらと輝く情景に感動した村長が、「今日は九日です。この文字を組み合わせて『旭』という名前にしましょう。」と言ったところ、全員賛成し、「相原村立旭尋常小学校」と改名されました。

## 九日一旭



旭尋常高等小学校(昭和15年)



▲御真影奉安殿落成式(昭和9年) ちょうど端午の節句だったので、鯉幟こいのぼりを立てている。奉安殿の中には、御真影すなわち天皇・皇后の写真や教育勅語が納められている。相原村立旭尋常高等小学校にて。

「目で見ると相模原の100年」(郷土出版社)より

## 10 牛久保家長屋門（持ち上げ観音）



牛久保家の長屋門



持ち上げ観音

牛久保家の長屋門は、近世末の建築と推定されていて、市の登録有形文化財に指定されています。桁行9.5間（約17.1m）梁行2.5間（約4.5m）の堂々たる構えで、現存する相模原市内の長屋門の中でも規模の大きいものです。（個人宅ですので、外からは見学できません。）

### 〈長屋門とは・・・〉

長屋門は近世諸大名の武家屋敷門として発生したもので、江戸時代に多く建てられました。諸大名は、自分の屋敷の周囲に家臣などのための長屋を建て住まわせていましたが、その一部に門を開いて一棟としたものが長屋門の始まりとされています。その後、長屋門は上級武士の住宅の表門の形式として広まりました。武家屋敷の長屋門は、門の両側部分に門番の部屋や仲間部屋が置かれ、家臣や使用人の居所に利用されました。また、侍屋敷の長屋門は武家屋敷の物より小振りですが、基本的な構造はほぼ同じです。また、**郷村武士の家格を持つ家や、名字帯刀を許された富裕な農家・庄屋でも長屋門は作られました。**更に明治以降は、**富農の家屋敷にも作られるようになり、**このような長屋門では門の両側部分は使用人の住居・納屋・作業所などに利用されていました。

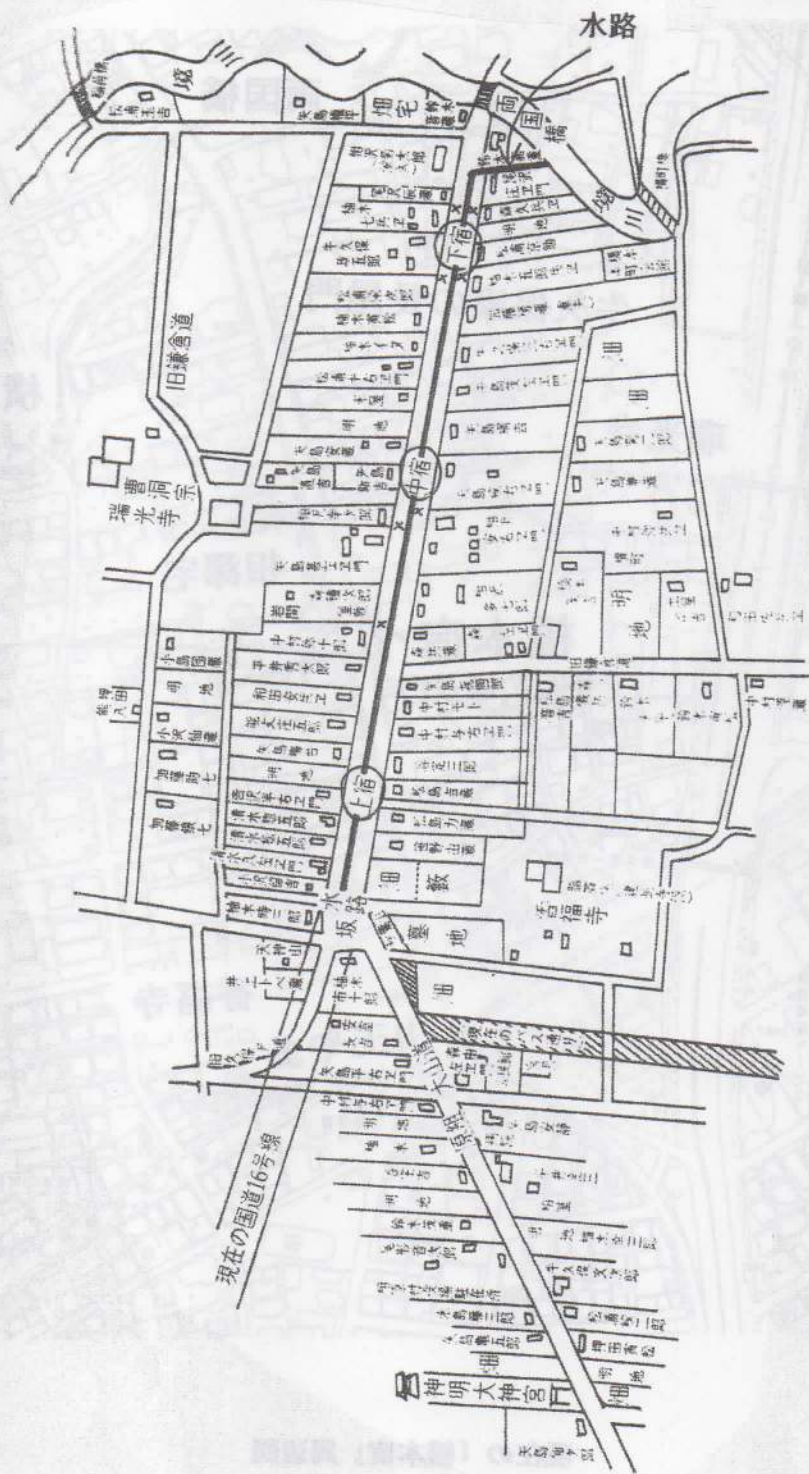
### 《牛久保家の持ち上げ観音》

牛久保家の玄関脇の18畳の座敷の、仏壇と並んだお厨子の中に、縦38センチ、横24センチ、重さ約2キロほどの舟形石で、頭上に馬の顔を頂いた馬頭観世音が安置されています。これが「持ち上げ観音」と呼ばれている観音様です。牛久保家では代々馬を飼っていましたが、特に「駿駮」と名付けられた馬は、とても利口で馬体も立派な名馬で大切にされていました。しかし、文政8年（1825）当主が所用の帰りに下九沢に差し掛かった時に、「駿駮」が急死してしまったので、その場に懇ろに葬り、馬頭観世音の石像を建立して、以後供養を怠りませんでした。ところが、62年後の明治20年（1887）8月に下九沢の人達がこの馬頭観世音像を荷車に積み、牛久保家へやってきました。人々の話によると、この馬頭観世音像が道行く人に「橋本に帰りたい」と告げ続けていたので大切に届けに来た・・・というのです。牛久保家の人々は、喜んで引き取り、仏壇の隣に安置して供養に勤めました。その後、名馬「駿駮」の霊験か、この像に願いをかけると、病気が治ったり、失せ物が出てきたりするようになり、願いがかなう時は石像が軽々と持ち上がると評判になりました。一番最近の例では、戦後すぐに近所の家で近隣一帯の農業機械用の油の配給券を紛失した際に、この持ち上げ観音に願ったら無事に出てきたとのことです。（持ち上げ観音も個人宅にありますので、非公開です）

### 11 橋本宿

橋本宿は、両国橋から香福寺付近の山王山（さんのうやま）までの街道沿いの宿場町です。江戸時代に、今の埼玉県方面から八王子を経て大山参りに行く人々は、御殿峠を越えて境川を両国橋で渡ると橋本宿に入りました。享保21年（1736）には伝馬4頭、人足4人が用意され、家は48軒あったと記録されています。大山道をはさんだ両側の宿場は、南から上宿、中宿、下宿と分かれていました。両国橋付近の宿場入口の両側には幕府の高札場があったとのこと。

明治初年頃の  
橋本村居住者見取図



宿場地図

「橋本の昔話」 加藤重夫著



現在の「橋本宿」周辺図

## 《橋本の郵便局の始まり》



橋本駅設置の記念碑



現在の相澤家（左側のガラスの建物のあたりに郵便局がありました）

橋本に郵便局ができたのは、明治36年（1903）12月9日です。橋本宿にある相澤家の本家で相澤安右衛門氏宅に、相模原で2番目（第1番目は上溝の郵便局で、明治5年にできました。）の郵便局として「橋本郵便受取所」が開かれました。2階建てで、1階は郵便局、2階は電報・電話局だったそうです。（この郵便局は特定郵便局で、個人宅に作るすることができます。その後郵政省の管轄になり、旭小学校前に移転しました。）2階にあった電報・電話局では、電話交換手が若い女性達だったので、声が聞きたくていざら電話をする人が多かったそうです。最初は、久保沢局（城山のあたり）から斎藤さんという通信手（電報を打つ人）を派遣してもらったとのことでした。

また、相澤家の庭には大正15年に建てられた橋本駅の最初の記念碑があります。碑には「風かほる 駅やむかしの 桑のはた」と刻まれ、駅の誕生の喜びが込められています。この記念碑は最初駅の近く（現在「橋本駅ゆかりの碑」がある所）に設置されていたのですが、こどもが登って遊ぶので危ないということで、相澤家の庭に移しました。その後昭和59年頃、相澤鼎氏が現在駅前に建っている「橋本駅ゆかりの碑」を作って設置したとのことでした。駅の場所を決める相談をした柿の木のごときは、相澤家の庭にある記念碑に書いてあります。（個人宅ですので、非公開です。）

昭和3年11月 御大典記念 橋本郵便局管内電話加入者一覽表  
 (内藤定一氏所蔵)

番号	氏名	住所	職業
1	相澤 茂治	相原村橋本	郵便局長
2	相澤 安右衛門	相原村橋本	農業
3甲	原 清兵衛	相原村小山	農業
3乙	原 清茂	相原村小山	農業
4	島崎 祐次郎	相原村小山	吹井屋支店
5	牛久保 政五郎	相原村橋本	農業
6	鈴木 直吉	相原村橋本	肥料店
7	井上 喜市	相原村小山宮下	農業
8	島崎 義治	塚村小山三ツ目	吹井屋本店
9	日進 社	相原村橋本	橋本駅前
10	大貫 泰三	相原村橋本	農業
11	大貫 長次郎	相原村小山	粉屋
12	秋和 平蔵	塚村小山三ツ目	肥料店
13	小川 康明	相原村相原	農業
14	柚木 鉄之助	相原村橋本	製材業
15	榎本 ますゑ	相原村橋本	産婆
16	平野 光二	相原村橋本	成瀬屋
17	橋本 営業所	相原村橋本	藤沢自動車
18	霧生 鶴太郎	相原村橋本	旭小学校校長
19	原 伊三郎	塚村相原坂下	中屋旅館
20	相澤 菊太郎	相原村橋本	農業
21	矢島 寅治	相原村橋本	矢島病院
22	安西 七五郎	相原村橋本	塚屋旅館
23	田中 永太郎	塚村相原坂下	永田屋
24	矢島 萬次郎	相原村橋本	新聞店
25	野尻 芳松	塚村相原坂下	回春堂医院
26	江成 藤吉郎	相原村橋本	肥料店
27	神田 稻吉	相原村橋本	小田原屋
28	大貫 泰三	相原村橋本	丸通支店
29	和田 高治	相原村橋本	写真館

「橋本の昔話」 加藤重夫著



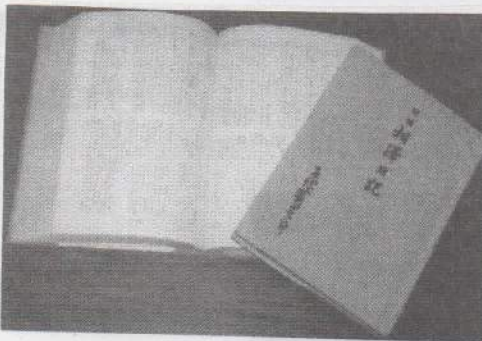
## 《相澤日記》



相澤菊太郎氏



相澤日記(市指定有形文化財:非公開)



相澤栄久氏が編集刊行した「相澤日記」

「相澤日記」は、相澤安右衛門氏の弟で、相原村村長をしていた相澤菊太郎氏（1866～1962）が19歳から96歳で亡くなる10日前まで、78年間も毎日つけていた日記です。この相澤日記のおかげで、昔の橋本のできごとや生活の様子がとてもよくわかります。たいへん貴重な資料のため、「市の有形文化財」に指定されています。相澤日記は橋本図書館の調べ物コーナーで閲覧することができます。（原本是非公開です。）

## 12 両国橋



両国橋

徳川家康が、文禄3年（1594）に境川をはさんで北側を武蔵の国、南側を相模の国と決めました。そのため、この橋は両方の国を結ぶ橋ということで両国橋と名付けられました。また、この橋は橋本宿に入る入口でもありました。現在もこの両国橋は、東京都と神奈川県の間になっています。

## 13 境川



境川は城山湖の北側付近を源流とし、相模原市と町田市を経て藤沢市で柏尾川と合流し、やがて江の島で相模湾に流れ込む総流域約69キロの河川です。河口付近では「片瀬川」とその名が変わります。

この川は古くは「高座川（たかくらがわ）」「田倉川」と呼ばれていました。これは平安時代に存在した、現在の海老名市あたりを中心とした「高座郡（たかくらぐん）」に由来するものと思われます。（現在は高座豚—こうざぶた—などにその名が残っています。）

その後文禄3年（1594）以降の記録では、「境川」となっています。これはこの年に行われた検地で、この川を相模の国・武蔵の国の境界としたためと伝えられています。しかし、それ以前はこの川は境界というよりも村の中心を流れていたようで、現在でも川をはさんで相原・小山・矢部・鶴間など同じ名前の地区が並んでいることからわかります。

また、この川は、かつては流路がくねくねとまがりくねっていたため、大雨のたびに氾濫して「暴れ川」と恐れられていました。その後河川整備が進み、なるべくまっすぐに改修したので残された流路が兩岸にそのまま飛び地として残っています。

### 36 橋本公民館

(数字は「橋本の文化財おさんぽマップ」に対応しています。)



旧橋本公民館（昭和51年）



現在の橋本公民館

橋本公民館は、最初旭小学校の中にあり、その後現在の旭児童クラブがある場所に市の出張所と並んで建っていましたが、平成12年（2000）4月に現在のイオンの6階に移転しました。駅に近くて便利なのでとても人気があり、利用団体の数が多くて部屋の予約がなかなか大変です。毎年3月の第1土・日曜日に行われる公民館まつりは、公民館利用団体の日頃の活動の成果を発表する場です。年齢を問わず、家族みんなで楽しめる春のおまつりです。

## 《 2 宮上地区コース 》

### 14 長屋門 (原清) ・ ・ (数字は「橋本の文化財おさんぽマップ」に

対応しています。)



(原家長屋門)



(小山家長屋門)

東橋本3丁目19番地にある(株)原清の正面入り口に、とても立派な長屋門があります。この門は、天保4年(1843)に幕府より許可を得て取り掛かった**清兵衛新田**(相模原駅～清新・南橋本あたりまで)を開発した小山村の豪農**原清兵衛光保**の子孫、原家の門です。(原家は甲斐の武田の重臣、原大隈守の子孫と言われています。)

門の長さは約16.6m、奥行約3.6m、高さ(屋根を除く)約3.4mという豪壮な物で、平成10年(1998)に左側のマンションを建てる際に、少し右側にずらして移築して改修されたとのこと。 (この移築、改修のため、残念ながら市の有形文化財には指定されませんでした。歴史的価値は変わりません。) この原家の東隣にある小山家の古い長屋門も大変見事で、原家の長屋門と共に神奈川県「昔の街並み百景」に選ばれています。

## 《原 清兵衛による清兵衛新田の開発》



(復元した清兵衛新田の開拓農家— 旧大谷家)・・・相模原市立博物館にあります。

天保11年(1840)、小山村の豪農の原清兵衛光保が中心となって、この地方を治めていた代官の江川太郎左衛門に開墾の許しを願い出ました。当初は**入会地**の3分の2を失う小山村他7か村の反対に合い、はかり知れない苦労があったそうですが、代官所の説得や原家のかなりの財力の提供もあって、ようやく天保14年(1843)に開墾が始まりました。

開墾されたのは約206町歩(約206ha)で、集まった入植者49名は、ほとんど近郊の村々や東京・埼玉の次男・三男でした。しかし、せっかく開墾しても火山灰のやせ地で、そば・粟・稗・大麦・小麦などしか栽培できず、しかも収穫が乏しく厳しい生活でした。水にも苦勞し、30mも掘った井戸が5軒に1つしかなくて、遠くまで水を汲みに行かなくてはならず、手足を水で洗えずに土を手ぬぐいなどではたき落とす「はたき洗足」をして家に上がる有り様でした。

13年後の安政3年(1856)の検地の時には、入植者が24名に減っていました。大変厳しい生活のため、早死にしたり逃げ出したりのしたものと思われます。この清兵衛新田があった地域の一部は現在**清新**と呼ばれています。

\***原清兵衛のお墓**は、蓮乗院の境内にあります。

\***入会地**・・・雑草や雑木が茂っている場所で、雑草は堆肥や飼料として、雑木は燃料として使われ、7か村(小山・橋本・上相原・上九沢・下九沢・大島・田名)の農民が共同使用していました。

\* 清新2丁目の大谷仁作さん宅に開墾当時の建物が残っていて（現在は納屋として使用）、その建物を復元したものが市立博物館に展示されています。当時の厳しい様子がうかがえます。

\* 開墾記念碑…清兵衛新田の鎮守として建てられた氷川神社（清新4丁目）に明治45年に建立されました。書は徳川慶喜によるものです。

【開墾記念碑・碑文】

およそ、一大事業を思い立つ人は多けれど、それを成就する人は、甚だ稀なり。こは、其の志を遂げるに非常の勇氣と勤勉とに加うるに、強健なる人にあらざれば能く成しがたきによる。

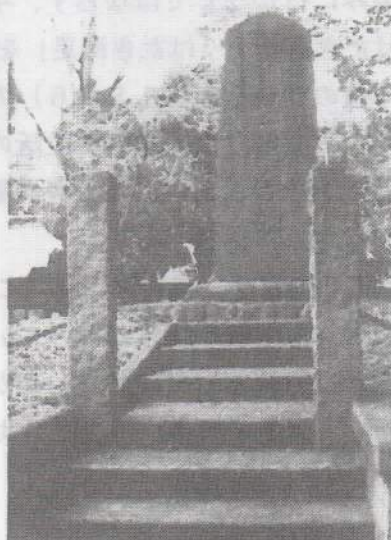
ここに相模の国高座郡小山村の人、原清兵衛翁は、此の勇氣と勤勉と強健との三つを兼ね備えたるすぐれ人にして、相模原のうち相模野の開墾を思い立ち、ついに成就されたる一大美事あり。

翁の家は甲斐の武田家の勇将原大隅守の末にして、武田家滅亡の後此処にのれ住み、農事に一身をゆだねられ、世々相繼ぎて翁に至る。翁は寛政七年二月其の家に生まれ、幼名を清蔵と呼ばれ長じて清兵衛光保と名のらる。かくしきある旧家なるに翁人となり内に不屈の勇氣を貯えたるも、外は温厚篤実を以つて人に交われしかば、其の信用おおかたならず、文化六年先考の後を受けて家督を継ぎしより、能く人をもちい能く業を進めて家道ますます榮え、男女の子五人を挙げられしに、長子清蔵氏家事をとるにたえるよわいになれりとて、清兵衛の名をつがせて家をゆずり自らは隠居しその名を嘉兵衛と改めらる。

なみなみの人ならば我事おわれりとて閑日月の中に、老をやしなわるべきに、翁は久しく意中におぼえ置かれし開墾のことを思い立ち、相模原のうち相模野の荒地を開かんとて、おおよげに出願されしは天保十一年の初めなりしが、事容易ならんとして、さうなくば許されざるを、翁がまたたび熱心に請い申さるる筋の道理をや認められけん、同十四年九月、時の代官江川太郎左衛門君より開墾許可の由を達せられしかば、多くの人を駆集めて、きり開きに打ちかゝり、道路を通じ水利をはかり、民家四十九戸を建て堀井十五ヶ所を設けて飲料に当て、戸毎にあるべき限りの農具をも配り備え、ここに移住せしむべきものは、近村農家の二・三男の他に出来るも差支えなきもののみを入るる事として、初めて村落を形づくりにしかば、安政三年七月より八月に亘りて、官より検地を行なわれ、二百五町九反式畝七歩と確定せられ、新に清兵衛新田と稱うべしといひ渡されぬ。

翁はいささかも私利をはからず、費用をなげうちて此の公益を、後に遺さるるを悦び、七十四才の高令をたもちて慶応四年五月身まかれ小山村なる先笠の側らに葬られぬ。

翁の後をうけたる清兵衛氏は、明治二年二月世を去りて、今のあるじ清兵衛氏其の家を継がれしが、開墾地は畑物に兼蚕に年々に榮えりて、翁は七十余戸となれるにつけて、故翁の功勞を追憶すべしといふ深く、いかに此の事を後の子孫に伝えんとて有志のともがら相談りて、建碑のごと定まりぬればとて、おのれに撰文をこわす。おのれ亦翁の公徳心厚きに感じ、辞せずしぞ、ここに其のあらましを記すこととはなりぬ。時は明治四十五年六月



七十二翁 前田夏繁 誌

《相模原開拓略年表》

時代	西暦	元号	できごと
江戸時代	1600	慶長5年	関ヶ原の戦い
	1603	慶長8年	江戸幕府開く
	1684	貞享1年	上矢部新田
	1707	宝永4年	大沼新田 (富士山宝永山爆発)
	1715	正徳5年	磯部・新戸・座間の用水
	1723	享保8年	溝境新田
	1770	明和7年	当麻用水の完成
	1783	天明3年	天明の大飢饉
	1787	天明7年	津久井土平治一揆
	1824	文政7年	淵野辺新田
	1833	天保4年	天保の大飢饉
	1838	天保9年	二宮尊徳小田原藩財政建て直し
	1845	弘化2年	米国船浦賀に来航
	1853	嘉永6年	米国船ペリー浦賀来航
	1856	安政3年	清兵衛新田
	1858	安政5年	烏山用水工事始まる
	1866	慶応2年	久兵衛築堤工事始まる
1867	慶応3年	大政奉還	
明治時代	1870	明治3年	橋本新開
	1871	明治4年	廃藩置県
	1872	明治5年	名主制度の廃止
	1877	明治10年	上鶴間篠原新開
	1880	明治13年	中和田新開
	1884	明治17年	下溝新開 (秩父一揆事件)
	1887	明治20年	谷口新開
	1888	明治21年	中村新開

	1889	明治22年	町村制施行(18村が7村になる)	
	1912		明治天皇崩御	
大正時代	1923	大正12年	関東大震災	
	1926	大正15年	上溝町誕生	
		"	大正天皇崩御	
昭和時代	1929	昭和4年	相原当麻田の開田	
	1932	昭和7年	大野台山林開発	
	1936	昭和11年	陸軍士官学校の用地買収	
	1941	昭和16年	相模原町誕生(2町6村の合併)	
	1939	昭和14年	相模原の軍都計画(県)決定	
	1940	昭和15年	相模ダム工事始まる	
	1941	昭和16年	第二次世界大戦勃発	
	1945	昭和20年	第二次世界大戦終戦	
		"	農地改革	
	1947	昭和22年	相模ダム完成	
	1948	昭和23年	畑地灌漑用水工事始まる	
		"	満州開拓団等が星が丘、麻溝台等で開墾	
		"	座間町が分離独立	
		1954	昭和29年	相模原市誕生

\*江戸時代に開発された土地を「新田」、明治時代以降のものは「新開」、戦後のものは「開拓」と呼びます。

\*参考文献

- ・相模原市史(第2巻)
- ・清新のしるべ(清新のしるべ編集委員会・・・平成10年)
- ・氷川神社社誌(氷川神社社務所)
- ・神奈川県開拓記念誌(神奈川県開拓者連盟・・・昭和50年)
- ・開拓十年市誌(神奈川県開拓十年刊行委員会・・・昭和30年)



## 15 地蔵菩薩 (子育て地蔵)

図録 81



(子育て地蔵)

東橋本の「宮上児童館入口」という交差点を南に少し入った所に、お地蔵さまの祠があります。(東橋本2丁目25番岡本氏宅内) 付近の人々は「お地蔵さん」と呼んでお花や水を上げて大切に守っています。このお地蔵さまは、昭和24年頃に付近の土地区画整理事業のため、別の場所から現在の場所へ移転されました。

ここのお地蔵さまは、市の資料によると、幼くして亡くなった子どもの供養のために享保4年(1719)に建てられたもので、子どもを守る「子育て地蔵」とも呼ばれています。

近所の方の話によると、昔は講中があったそうですが解消され、今は近所の方々が守っているそうです。また、春のお彼岸の日には蓮乗院の住職にお願いして、信仰する皆さんで供養をしているそうです。

## 16 蓮乗院



(蓮乗院 山門)



(養麟学舎の碑)

蓮乗院は天縛山無量寺と号し、室町時代の天文3年（1534・・・織田信長が生まれた年）に長尊という僧が建立し、後に高尾山薬王院の末寺となった真言密教の寺院です。清兵衛新田の開墾の際には、出張してきた江川代官所の役人たちの宿舎となり、様々な話し合いが行われました。境内には原清兵衛の墓所もあります。

明治5年（1872）の政府の学制発布により、蓮乗院にも「養麟学舎」という寺子屋が開設されました。しかし、明治11年（1878）に蓮乗院が全焼してしまい、養麟学舎は蓮乗院の東側にある霧生家に移されました。次第に生徒が増えて手狭になり、氷川神社に分校を作ったとのこと。当時の近隣の寺子屋は、蓮乗院の「養麟学舎」（小山村）、正泉寺の「益進学舎」（相原村）、瑞光寺の「本然学舎」（橋本村）の3つで、それぞれのお寺に石碑が建っています。（この3つの寺子屋が、後に旭尋常小学校にまとめられました。）

現在の蓮乗院の建物は、昭和59年（1984）客殿・山門を、平成6年（1994）に本堂を再建したものです。また、同年に第2次世界大戦で供出された鐘の代わりに新しい鐘も作られました。

また蓮乗院は、明治政府の神仏分離までは、小山村の鎮守である天縛皇神社の他に7社と阿弥陀堂・薬師堂を別当（宮廷・社寺などの事務長官）として管理していました。

## 《市指定有形文化財「順席」の大発見》



(発見された「順席」)



(御三家の短冊がある写真)



(短冊の写真)

昭和56年(1981)に相模原市立博物館を作ることが決まり、初代市立博物館館長で当時明治大学の先生をされていた**神埼彰利**さんが蓮乗院に残った資料を調査している時に、物置で偶然「順席」というものを発見しました。

「順席」というのは、江戸城で大名や旗本が将軍に拝謁するために控える「詰め部屋」の中の席の順番などを記したもので、(大きさは縦30cm、横22cm、厚さ8cm) 大名の名前やその経歴・系図・領地・所領高などが書かれた名刺短冊が、官位・役職や江戸城での詰め部屋別に貼られたものです。短冊は468枚あり、1ページ当たり2~3枚の名刺短冊が貼ってあります。つまり「順席」は、大名の名前を読み上げたり、大名からのお土産を将軍に披露したりする「奏者番」という係りを担当する大名の「あんちょこ」のような役割を持っていたと思われます。

ところで、「順席」は徳川家の「紅葉山文庫」にあるべきもので、簡単に外に持ち出せるものではありません。調査により蓮乗院の「順席」は、慶応3年(1867)の6月~10月の間に作られたことがわかりました。慶応3年と言えば大政奉還をした年で、その頃の名名の情報がこの「順席」に詰まっている訳です。現在発見されている「順席」は、**国立国会図書館にある天保14年(1843)のものと蓮乗院のもの**の2つ

だけです。しかも、研究・解析し、活字化されているのは、蓮乗院のものだけで、大変貴重な資料と言えます。明治政府ができてから幕末史の資料の多くが焼き捨てられてしまったため、「順席」は幕末史の穴を埋めることができるもので、歴史的かつ資料的な価値が大変高いということで、市の有形文化財に指定されています。現在「順席」は保存のため非公開ですが（蓮乗院に大切に保管されています。）尚、市立博物館には写真撮影したもの、小山公民館には複製がありますので、希望者は閲覧することができます。

ところで、門外不出のはずの「順席」がなぜ蓮乗院にあったのでしょうか？

**神崎さんの説**・・・当時の小山村の領主だったのは、旗本の藤沢次謙（つぐよし）で、とても優秀な人で蘭学にも通じ、素晴らしい画家でもあったそうです。勝海舟が幕府の陸軍総裁をしていた時に副総裁を務めたほどの人でしたが、はっきり物を言う人だったらしく、幕府に軍隊のだらしなさを進言して辞めさせられ、後に明治政府で働いていた時にも、政府と方針が合わず辞めてしまいました。

その後、かつての藤沢氏の領地（小山・橋本・川尻・飯山・散田・寺山など）を訪れ、何日間か滞在しながら回り、全部回った4ヶ月後に亡くなったそうです。次謙は、領地を回りながら自分の持っていたものを世話になった所へ形見分けしたそうで、その中に原清兵衛宅も入っていたのです。原家の菩提寺は蓮乗院なので、次謙が蓮乗院を訪れて滞在したことが考えられ、この時に「順席」が蓮乗院に形見分けされたのでは・・・と推定されます。（小山公民館HP「小山の昔語り」より）

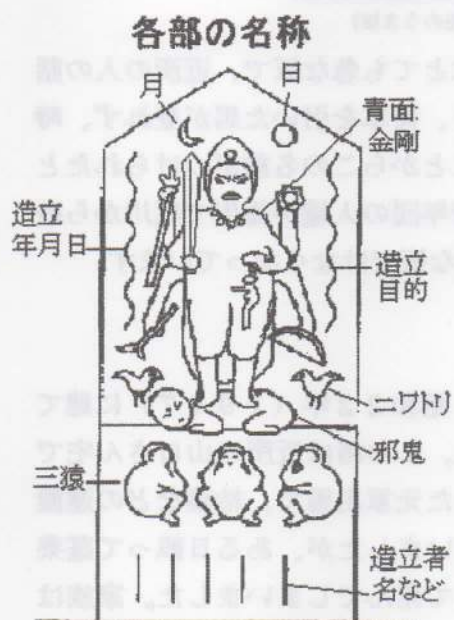
## 17 庚申塔



この庚申塔は、宝暦4年（1754）に建立されたもので、青面金剛が彫られています。庚申塔は村や地域の辻に建てられ、悪疫を防ぎ、招福・延命をもたらすものとして講中が作られ、60日ごとに来る庚申（かのえさる）の日にお参りがされていました。

**庚申のお参りの意味**・・・中国の古い言い伝えで人間の体の中に3匹の虫がいて、その虫達は庚申（かのえさる・・・60日ごとにめぐってくる）の日の夜に体から抜け出して、天の神にその人の悪口を告げ口すると言われていました。告げ口された人は病気になったり寿命が縮まったりすることから、その日になると虫が体から抜け出さないように庚申塔にお供え物をして、お祈りするようになりました。

宮上地区の庚申塔は、このうま坂の上のもの他に、蓮乗院の鐘つき堂の裏、二十三夜さまの祠の横の三か所にあります。



青面金剛（せいめんこんごう・しょうめんこんごう）の使者で、金剛童子。体は青色で六臂（ろっぴ）または二臂、四臂、目は赤く三眼で、怒りの形相をとっている。病魔を退散させる威力があるとす。庚申（こうしん）の本尊としている。

## 18 うま坂



(うま坂の地名標柱)



(現在のうま坂)

蓮乗院のすぐ西側にある坂で、昔はとても急な坂で、近所の人話では戦前は冬の寒い時に道が凍りつき、荷車を引いた馬が登れず、時には足の骨を折るなど苦勞したとのことからこの名前がつけられたとのことです。その後、毎年隣組合や青年団の人達が総出で境川から砂利を入れてきたので、現在は昔ほど急な坂ではなくなっています。

## 19 馬頭観世音



(馬頭観世音)

この碑は、昭和22年(1947)に建てられました。この馬は近所の山口さん宅で飼われていた元軍用馬で、枯葉などの運搬作業をしていましたが、ある日誤って蓬莱橋から落ちて死んでしまいました。家族はこれを悲しみ、供養のためにたてがみを埋め、この碑を建てました。

## 20 まつば坂



(まつば坂の地名標柱)



(現在のまつば坂)

昔この坂の上の畑だったところに的場（弓を射る場所）があり、「ま  
とば」がなまって「まつば」坂と呼ばれるようになったとのことです。  
天縛皇神社に行く時に通る坂なので、「天縛坂」とも言われています。  
坂の上には市が建てた「まつば坂」の標柱があります。昔は坂の北斜  
面はうっそうとした山林で、セミやカブトムシ採りなど、子どもたち  
の自然の遊び場だったそうです。

## 21 天縛皇神社



天縛皇神社は、旧小山村の鎮守とされている神社で、天文元年  
（1532）に創建されました。祭神は創建当時は帝釈天で、明治時  
代初期に神仏分離令により伊邪那岐命（いざなぎのみこと）と伊邪那  
美命（いざなみのみこと）に替わり、神社名も「天縛明神社」から  
「天縛皇神社」になりました。人々から「お天縛さま」と親しまれ、

この神社を境に境川の川上を「宮上」(みやかみ)川下を「宮下」(みやしも)と呼ぶようになりました。尚、現在宮下は地名として残っていますが、宮上は地名としては残っておらず、小学校、児童館、公園に名を残すのみです。

その後、明治42年(1909)に宮上に合った足穂(たるほ)神社を合祀したため、現在は天照大神・神呂岐命(かむろぎのみこと)・大山咋命(おおやまくいのみこと)も祀られています。

また、「天縛皇」は「天を縛る」という意味ではなく、伊勢信仰に関連する「天白信仰」に基づくのではないかとみられています。天縛皇神社の祭礼は毎年8月29日で、大勢の人で賑わいます。

### 《天白信仰》

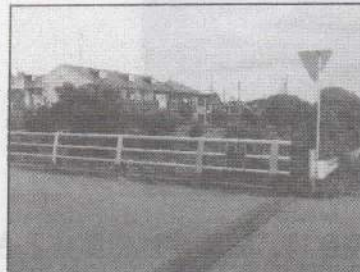
本州のほぼ東半分に見られる民間信仰で、長野県・静岡県を中心とし、南限は伊勢・志摩で北限は岩手県あたりまで広まっています。信仰対象は、星神・水神・安産祈願など多岐にわたります。1980年頃から伊勢土着の麻積氏の祖神、天白(あめのしらはのかみ)を起源とする説が多くなっています。

## 22 二十三夜様



(二十三夜様の祠)

## 23 精進場



(現在の蓬莱橋)

二十三夜様は、旧暦二十三日の夜の月(夜中の12時半頃出る一番欠けている下弦の月)を拝む行事(月待ち講)で、特に1月23日は月の出方によってその年を占います。月がまっすぐに立って出れば、



物を売る時値が高くなり、横になって出れば安くなると判断します。  
また、月の出る位置で農作物の豊凶を占ったそうです。月が出るのは  
24日になってからなので、主に農家の女性達が23日の夜の9時頃  
から集まり、飲食しながら月の出を待ったそうです。月が出た時に願  
い事をすると願いが叶うと言われ、日頃忙しくて休む暇のない人達の  
休息日の意味もあったと思われます。

二十三夜様の近くの蓬莱橋がある場所は、かつて精進場と呼ばれて、  
大山参りの人々がここで身を清めてから大山に向かったそうです。  
しかし、ここには恐ろしい形相の老婆が夜中に小豆洗いをしていたと  
いう噂が流れたり、人さらいがあつたりして人々が不安に怯えていた  
ので、地元の有力者の大塚市左衛門が安永10年(1781)に橋の  
たもとに二十三夜講の本尊、勢至菩薩(阿弥陀如来の右脇仏  
で知恵を表し、観世音菩薩と共に弥勒三尊を構成する仏様)を祀って、  
橋供養をしました。それ以来この祠は「二十三夜様」と呼ばれて地元  
の人々に親しまれています。

いつしか「橋の神様」がなまって「足の神様」と言われるようになり、  
足の病気で悩む人が遠方からもたくさんお参りに来るようになりました。  
今でも祠の中に靴や草履・わらじ・スリッパ・杖などが供え  
られています。



小豆洗い

小豆(あずき)洗い・・・・・・・・？

小豆洗いは「小豆とぎ」とも呼ばれる妖怪です。

住んでいる場所は決まっています、谷川のほとりか、橋の  
下です。夕方になると橋の下に現れて、ショキショキと小  
豆を洗っているような音を立てます。人に害を与えません  
が、時には「小豆とごうか、人にとって食おうか」とうたっ  
ては人を驚かせます。この唄声に近づこうとすると必ず川  
に落ちると言われています。

小豆洗いの正体については、ムシナやガマが化けたもの  
とか、ヒキガエルが変じたものとか、いろいろな説があり  
ますがはっきりしていません。

夕方ショキショキと音を立てるのは「暗くなると川はあ  
ぶないから近寄るな」と子どもたちに教えているのもし  
れませんね・・・・・・・・

\*下記の精進場の説明は、両国橋のたもとにあった精進場のことです。

# 道

## 地名余話

### 精進場

橋本宿の北端にある両国橋から70～80m上流の境川沿いに「精進場」と呼ばれるところがあります。今でも竹藪に囲まれた静かな淵ですが、ここは大山参りの道者らが水を浴びたところと伝えられています。

武州各地や秩父方面から大山をめざす道者は、どうしても多摩丘陵を越えなければなりません。息をきらし汗を流して御殿峠を越えると、清らかな

流れを見せる境川にたどりつくことができます。そこで彼らは川に入り「六根清浄」を唱えながらここで水を浴びました。

「精進」とは身体を清めることなどをいいます。

また、「精進場」は隣村の小山村にもあり、それは現在の蓬萊橋の付近であったといわれています。（「境川の淵や橋」参照）



「さがみはらの地名」(村をつないだ道・川)

相模原教育委員会・平成2年度

## 《宮上小学校》



(宮上小学校)

宮上小学校は、昭和54年（1979）に児童数の増加で教室が足りなくなったことや、学区が広くて遠いことを理由に、旭小学校から分離し開校されました。（旧市内で46番目）開校したのは4月1日ですが、ちょうど市制25周年に当たっていたため、開校記念日は4月25日にしたそうです。

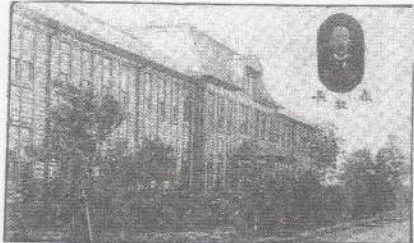
また、宮上小学校は境川に面しているので、平成8年（1996）ごろから粗大ゴミが散乱する川の美化活動を続け、平成18年（2006）に「地球ピカピカ大賞」で全国1位となる**最優秀賞**を受賞しました。

(学校の変遷・・・蓮乗院の養麟学舎—小山学校—旭小学校—宮上小学校)

## 《 3 橋本南地区コース 》

### 24 相原高等学校

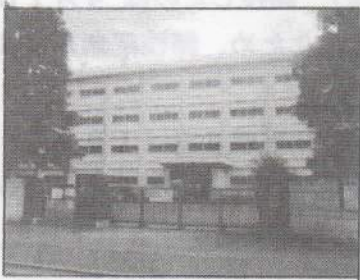
（数字は「橋本の文化財おさんぽマップ」に対応しています。）



（大正12年 開校当時の相原農蚕学校）



（周りは畑ばかり・・・）



（2011年の相原高等学校）

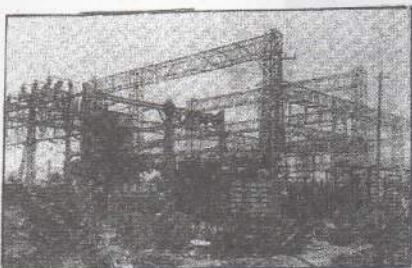
相原高校は、大正11年（1922年）10月に「**県立農蚕学校**」として設立が許可され、翌大正12年（1923年）4月に県で2番目の甲種農学校として出発しました。当時の学科は農業科・蚕業科・専修科の3科です。（現在は、畜産科学科・食品科学科・環境土木科・商業科・国際経済科・情報処理科の6科です。）その後「**県立相原農蚕学校**」（昭和5年）、「**県立相原農蚕高等学校**」（昭和23年）、「**県立相原高等学校**」（昭和29年）と3回名前を変えて現在に至っています。橋本駅南口すぐの地に位置し、広大な敷地（創立時21,530坪・・・約7.1ha）に楠の大木を始め、たくさんの立派な木々が立ち並び、まるで公園のような趣さえ感じさせられる緑豊かな学校です。

橋本駅前にありながら、なぜ「橋本高校」ではなく「相原高校」なのかという、創立当時この辺りが相原村だったからです。敷地は相原村の原清兵衛他20数名が寄付したそうです。当時の相原村は純農村で、橋本駅と両国橋周辺にわずかに商店や人家が散在するのみで、学校周辺は見渡す限り桑畑と麦畑だったとのこと。

開校約半年後の大正12年9月に関東大震災が起きた時に、農蚕学校は被害が軽かったのも、大きな被害を受けた横浜へ向けて自転車で救援物資を届ける「救難自転車隊」を組織し、森校長を先頭に教員と生徒の50余名で9月15日の朝、100貫(375kg)のかぼちゃ・じゃがいも・里芋・さつま芋・茄子などの農作物を神奈川県庁まで運び、大変感謝されたとのこと。また、2011年の3月11日に起きた東日本大震災の時には、帰宅困難者のために体育館を宿泊・休憩場所として提供して大変喜ばれたそうです。

相原高校は地域との交流も積極的に行っていて、幼稚園・保育園・小学校の子どもたちが遊びや勉強に訪れたり、正門前で野菜や牛乳や卵などを販売したり、校内で育てた家畜や野菜を使ってカレーや中華まんなど色々の商品を開発して、ミウイ始め周辺の商店で時々販売し、地域の人に喜ばれています。また、正門の壁には生徒達の各方面での活躍の様子を知らせる掲示板があり、道行く人々に親しまれています。

## 25 橋本変電所



(建設当時の橋本変電所 大正12年)



(南町内会の会合場所として  
使われていた変電所の旧事務所)



(2011年の橋本変電所)

橋本変電所は国道16号沿いにあり、大正12年(1923年)に送電を開始しました。当時としては珍しく見上げるような鉄塔が立ち、甲信幹線と呼ばれてここで電圧を調整して東京・横浜へ電気を送っていました。電圧を変圧する時に発生する電熱を下げるための用水として深さ100mほどの井戸を掘ったそうです。この井戸水は、構内の10軒の社宅はもちろんのこと、工事のために付近に住んだ人々や一般家庭へも給水されました。また大山街道沿いに、蛇口が作られて通行する人も使えるようにしてあって、大変喜ばれたそうです。

当時は変電所と言わず、スイッチを入れたり切ったりすることから「開閉所」と呼ばれていたとのこと。現在、橋本変電所は送電線の橋本線・淵野辺線・大野線・南多摩線・長野線のスタート地点で、都留線・八ツ沢線・桂川線のゴール地点だそうです。また、社員の練習用の鉄塔が敷地内に3本あるそうです。

**26、27 棒杭**

**31 大山道**



(塚田医院前の棒杭の石碑)



(橋本1丁目の小山さん宅にある棒杭の道標。以前は左の棒杭の石碑の場所にありました。)



(今も残る「大山街道」の名前)



(供養塚にある石碑)

棒杭は、江戸時代中期に盛んになった大山詣で(大山参りともいいます)の道中に設置された道標です。大山詣では庶民の物見遊山を兼ねた社寺への参詣の1つで、神奈川県で最も信者を集めた大山への参詣のことです。大山は奈良時代に開山されたと伝えられ、別名雨降山(あめふりやま・あふりやま)と言ひ、頂上の大山阿夫利神社(おおやまあふりじんじゃ)は雨乞いの神様を祀っています。

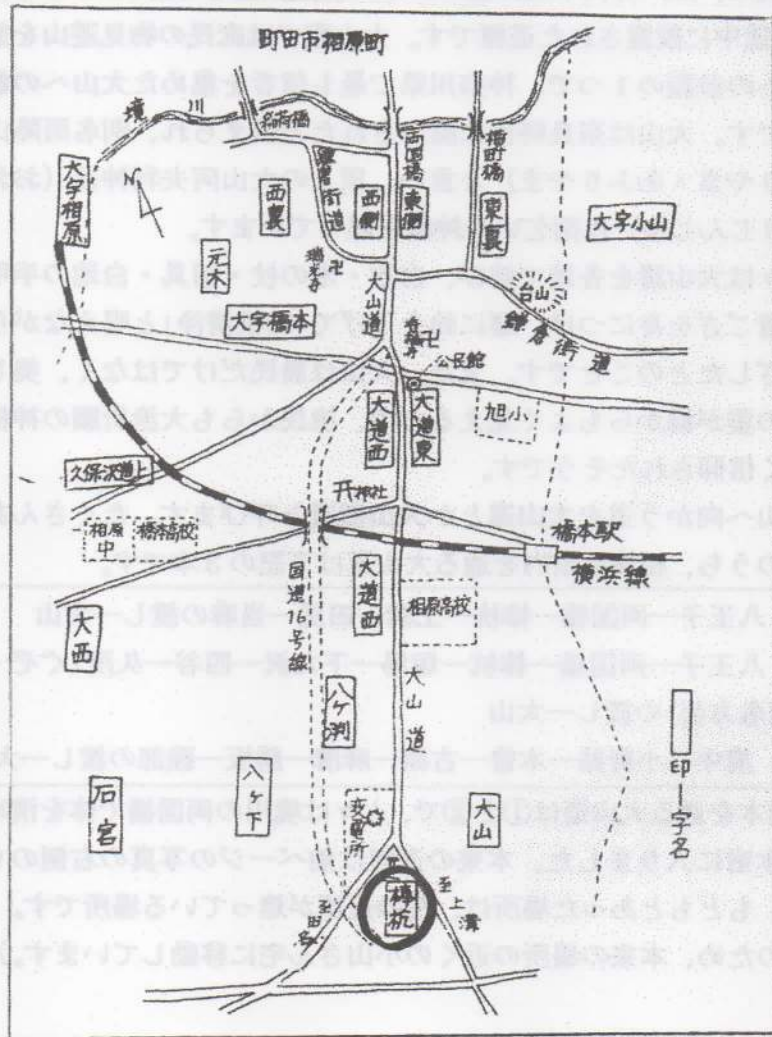
人々は大山講を各地で結び、白衣・木の杖・雨具・白地の手甲・脚絆・着ごさを身につけ、腰に鈴を下げて「六根清浄」と唱えながら大山をめざしたとのことです。また、大山は農民だけではなく、美しい三角形の姿が海からもよく見えるので、漁民からも大漁祈願の神様として厚く信仰されたそうです。

大山へ向かう道を**大山道**とか**大山街道**と呼びます。たくさんある大山道のうち、相模原市内を通る大山道は下記の3本です。

- |   |  |
|---|--|
| ① | 八王子—両国橋—棒杭—上溝—田尻—当麻の渡し—大山                |
| ② | 八王子—両国橋—棒杭—塚場—下九沢—四谷—久所(ぐぞ・・・田名方面)の渡し—大山 |
| ③ | 府中—小野路—木曾—古淵—麻溝—勝坂—磯部の渡し—大山              |

橋本を通る大山道は①と②で、人々は境川の両国橋で体を清めてから橋本宿に入りました。本来の道標は前ページの写真の右側のものですが、もともとあった場所は、左の道標が建っている場所です。(区画整理のため、本来の場所の近くの小山さん宅に移動しています。) 本来

の道標には右側に「北八王子道」左側に「南あつぎ道」と記され、裏面に「安政」（江戸末期）、正面の下の方に大きく「右大山みち田名〇〇〇」と彫られています。この道標は、橋本宿から上溝方面に行くか田名方面に行くかの分岐点に建っていて、田名の人々が宿場にお客を呼ぶために、「田名が大山詣での近道」である旨をこの道標に書き入れて建立したのではないかとされています。ちなみに、田名の名主で宿屋を経営していた江成氏の記録によると、夏期の大山詣での客の人数は、寛政11年（1799）が415人、文化元年（1804）が582人、文政3年（1820）が646人とのことです。道標の効果がかつこうあったのではないかと思います。





## 28 常慶くぼ



(常慶くぼの石碑)

常慶くぼの碑は、橋本ライフタウン内のくすのき公園の中に建っています。しかし、碑には「江戸時代にこのあたりに住んでいた常慶というお坊さんにちなんでこの名になった」としか書かれていないため、どういふものなのかよくわかりません。調べてみると、常慶というのは香福寺にいた僧の名前で、(延宝7年 1679年没)この地に香福寺の支院である常慶庵があったとのことでした。

「くぼ」というのは窪地のことで、当時今の変電所のあたりから北西部を「八が淵」といい、それにつながる南方の低地を「八が下」と呼んでいたそうです。雨が降ると八が淵からの雨水が八が下の窪地に流れ込んだそうで、八が下の窪地のあたりに常慶庵があったことからこの窪地を「常慶くぼ」と呼んでいたことがわかりました。

## 29 開拓記念碑



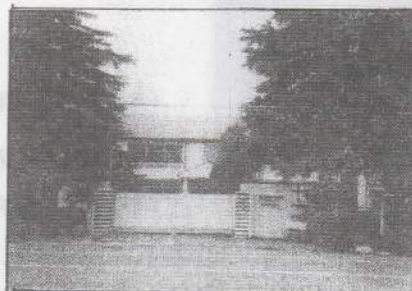
(開拓記念碑)

太平洋戦争が終わると、国は食糧難、引揚者対策として荒れ地の開拓計画を進め、昭和24年(1949)に北相開拓農業協同組合が設立されました。今の橋本台周辺の開拓が行われ、関係者によって記念碑が建てられましたが、都市化により、橋本ライフタウン内の相模中央青果卸売市場寄りの場所に移されました。

### 30 工機部跡地 (区画整理竣工記念碑)



(相模原都市計画事業橋本地区  
土地区画整理事業竣工記念碑)



(国鉄橋本自動車工場・工機部)



(オラリオンサイト)

工機部(国鉄橋本自動車工場)は、現在緑区役所・橋本郵便局・高層マンションのオラリオンサイト・相模原北警察署などがある場所にありました。第二次世界大戦中、国鉄では関東一帯の自動車輸送能力の増進を図るためと有事疎開のために自動車修繕の専門工場の建設を始め、昭和20年(1945)に開所しました。その後、工機部の跡地と周辺市街地を整備し、神奈川県住宅供給公社が橋本地区土地区画整理事業を行い、平成8年(1996)にまず橋本郵便局が完成されるまでは、背の高い囲いで囲まれた雑草の生い茂る空き地として、

長くそのままにされていました。現在は緑区役所もでき、近くの国道16号線の「橋本駅南入口」交差点では地下道の工事が行われ、人や車の流れが変わりつつあります。

### 3 2 供養塚



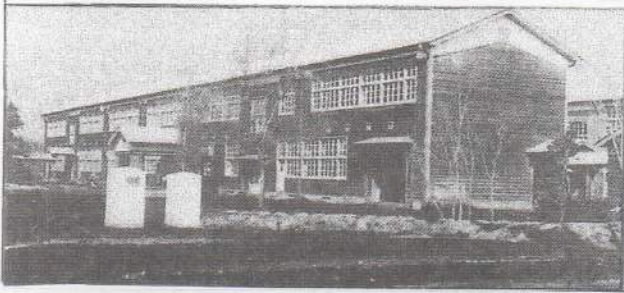
(供養塚全景・左から忠魂碑・表忠碑・戦没者顕彰碑・供養塔)

大山街道踏切から相原高校方面に向かう交差点脇に、供養塚と呼ばれる小さい丘があります。ここには左から**忠魂碑**（昭和30年 1955年）、**表忠碑**（明治42年 1909年）、**戦没者顕彰碑**（明治42年 1909年）、少し手前に**供養塔**（明治31年 1898年）の4基の石碑があります。

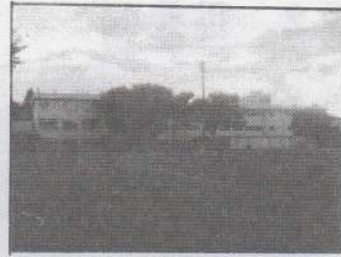
この供養塚の場所は、永禄12年（1569）10月の「三増（みませ）合戦」（武田信玄と北條氏康の軍勢が愛甲郡三増峠で戦った合戦）で敗退した北條方の落ち武者の一部が、八王子の滝山城へ引き返そうとして道を誤り、力尽きた数十人が自刃した場所と言われています。明治31年（1898）に橋本の人々がこれを哀れに思い、慰霊のために供養塔を建立したので、以後この場所が供養塚と呼ばれるようになったそうです。

また、明治42年（1909）には、日清・日露戦争に従軍した犠牲者を悼む表忠碑と戦没者顕彰碑が建立されました。碑文は山形有朋氏の筆によるものです。表忠碑を建立する時に供養塚を発掘したところ、三増合戦当時のものと思われる武具・刀剣・銅銭などが少量出土したそうです。その後この地には昭和30年（1955）第二次世界大戦の戦没者のための忠魂碑が建立されました。

## 《旭中学校》



(昭和25年 1950年 創立当時の校舎)



(2011年の旭中学校)

旭中学校は、6・3・3制の教育制度により昭和22年(1947)5月に旭小学校に間借りして、「高座郡相模原町立旭中学校」として開校しました。橋本地区の中学校なのに「橋本中学校」という名前ではないのは、このためです。(橋本中学校は存在しません)その後、生徒の増加により旭小での間借りでは狭くなり、昭和25年(1950)の9月に現在の場所に建った木造の新校舎に移転し、昭和29年(1954)には、相模原町が市になったため「相模原市立旭中学校」と改称しました。

創立当時の旭中の校区は大変広く、現在の相原・内出・清新・小山・中央(の一部)の5つの中学校の校区を合わせた広さで、(つまり二本松あたりから西門あたりまで!!)家庭訪問をする先生はとても苦労したそうです。また校区が広いため、当時は生徒にも自転車通学が認められていたそうです。開校当時、敷地の広さが県下一でしたが、昭和48年(1973)の10月に下段校庭を橋本小の敷地として分譲しました。今でも校地がかなり広く、駅から近いこともあって野球や剣道などの部活の試合会場になることが多いようです。また、公立中学校としては珍しく弓道部があるのも特色です。(市内唯一)

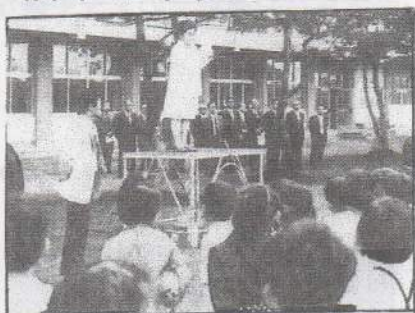
3代に渡って旭中の卒業生という家庭もあり、校長室にある歴代の卒業アルバムで、祖父母や両親の中学時代の写真を見つけて現役の生徒が喜ぶ・・・という場面も見受けられました。また旭中の卒業生が

教諭として活躍されている例も見受けられます。

昭和35年(1960)ころから生徒数が増え始め、昭和56年(1981)ころまでの間、全校生徒が1600人~1700人も在籍する超マンモス校になりました。(1学年13クラスあったそうです)その後、清新中や相原中、内出中、小山中などが創設されてようやく1000人前後の人数に落ち着き、現在に至っています。

また広い校庭は、毎年9月の第2日曜日に開催される橋本町民運動会の会場として長年親しまれています。尚、開校以来たくさんの旭中生を見守り旭中のシンボルツリーと言われていた正門付近の大きな柳の木が、キノコによる腐食が進んで倒れる恐れが出たため、2010年に惜しまれながら切り倒されたそうです。

### 《橋本小学校》



(初めての朝礼で 昭和49年6月 初代校長 平野清子先生と…)



(2011年の橋本小学校)

橋本小学校は、もともと旭小学校に通っていた児童の教が増えたのと、校区が広くて小学生には通いづらいという理由で、昭和49年(1974)4月に旭小学校の一部に間借りして創立されました。そして、旭中の下段校庭を分譲してもらった土地に鉄筋の校舎が完成し、6月1日に現在の場所に移りました。当時4年生以上の児童は、自分たちの手で教室を清掃し、自分の椅子を旭小から1km以上離れた橋本小まで運んだそうです。校庭の一部が未整地の松林であったことや国道16号線の車の騒音がひどかったことから、保護者や地域の人々が多くの材木の寄贈や植樹・整地の勤労奉仕をし、現在の16号線沿いのみごとな緑を完成させたそうです。

橋本小の校区は交通量が多く、16号線を渡って裏門から登校する児童の方が正門から登校する生徒より多いのが現状です。そのため登下校の安全確保が最重要課題でした。しかし、平成9年(1997)に西橋本の地下道(以前は歩道橋でした)、平成12年(2000)に橋本五差路の地下道ができて、だいぶ安全に通えるようになりました。現在も続いている登校班による集団登校は、開校当初は事故と班長の責任を心配する声が多かったそうです。最近では付近に大型マンションができたこともあって児童数が増え続け、現在では市内で1、2を争う「児童数が多い小学校」になっています。

また、平成15年(2003)に始まったホームページはほぼ毎日更新されているせいかアクセス数がとても多く、平成17年(2005)には優秀な学校ホームページに与えられる「J-KIDS大賞」のベスト8(特別推薦枠)に輝いています。(修学旅行や運動会の実況中継なども保護者に人気とのことです。)

### 《「かなりや児童館」から「橋本こどもセンター」へ》



(昭和39年 かなりや児童館)



(橋本こどもセンター)

ときわ会総会の写真

かなりや児童館は、昭和38年(1963)4月に現在橋本こどもセンターがある相原高校南隣りに、児童館兼南町自治会館として建設されました。(南町は現在の橋本1,2丁目と西橋本に当たり、昭和42年に現在のように分かれました。)当時のかなりや児童館は木造平屋建てで、平成5年(1993)の3月に閉館するまで30年の間、地域の子どもたちと住民の心のよりどころ・集会所・投票所として親しまれてきました。尚、当時の児童館は「こぼと」とか「ひばり」など鳥の名前がつけられることが多かったそうです。かなりや児童館の指導員として勤務されていた大籠(おおごもり)さんと小澤さんにお話を伺ったところ、児童館は月曜日が休みで、火曜日から日曜日までの午後1時~5時の間開館していたそうです。

指導員は基本的に1人で(毎日交替)子どもたちの世話をしたそうです。(2人同時勤務は月1回で、その時に行事の企画を立てたりし、普段は日誌で様子を伝え合ったとのこと)そのため、こどもが大勢やってくると全く目が離せなかったそうです。児童館としてはとにかく「安全第一に楽しく過ごす」をモットーとし、七夕飾り作り・飯ごう炊さん・キャンプファイヤー・相原高校での宝探しや写生・どんど焼きなどの行事を企画し、毎月「児童館だより」をガリ版で切り、印刷して配布していたとのこと。

かなりや児童館は建物が開放的な平屋だったこともあって、通りがかりの地域の人がふらっと寄って世間話をしていくような、気楽で親しみやすい雰囲気があったそうです。夜は団体貸し出しをして、自治会等の会議やお囃子・鼓笛隊の練習等に大いに利用されていました。

(夜の団体貸し出しは、こどもセンターになっても続いています。)

しかし、平成5年(1993)3月にその役目を終え、1年後の平成6年(1994)4月に同じ場所に鉄筋2階建ての「相模原市立橋本こどもセンター」が開館しました。年末年始と選挙の投票日・偶数月の第3日曜日以外は開館しています。開館当時は館長含めて9人だった職員は、今は補助員の人も含めると20人以上とのこと。児童クラブ(学童保育)で預かるこどもの定員は最初50人でしたが、時代の流れにより現在は100人

に増えています。放課後こども教室事業として、各種工作・ゆめひろばシアター・おはなし会等20事業、世代間交流事業として、マジックショーや近隣高校・中学校との連携事業等12事業を行っています。また、子育て支援事業として毎週2回の子育て広場や週1回のキッズタイム、毎月1回のふれあい親子サロン等を実施しています。

尚、児童クラブは当初旭小と橋本小の両校の児童が対象でしたが、入会希望者の増加により平成16年(2004)4月から、旭小の児童は旧橋本公民館跡地にできた「旭児童クラブ」に移りました。午前中は主に乳幼児とお母さんたち、午後は一般児童と児童クラブのこどもたちも加わって、年にのべ36000人(月に約3000人)の入館者があるそうです。

また、橋本こどもセンターには「かなりや子どもの広場」が隣接しているので、ボール遊びや一輪車や竹馬などの外遊びがのびのびできる点が、他のこどもセンターより恵まれているといえます。

### 《相模原協同病院》



(昭和29年・1954年の協同病院)



(2011年の協同病院)

橋本地区周辺は、長い間無医村のような状態で、結核や脳卒中などで亡くなる人が多く、乳幼児の死亡率も高かったそうです。このような状態を解消するために、昭和11年(1936)に農民医療利用組合の設立準備会が発足されましたが、第二次世界大戦や地元医師会の反対などで、なかなか進展しませんでした。しかし、昭和14年(1939)に当時の近藤知事から病院用地のあっせんがあり、現在の場



所に3025坪(約1万平方メートル)の土地が確保されました。ただ、当時は戦時中のため建築資材が手に入らず、愛甲郡の製糸工場の解体材や、串川組合建物の解体材などを使って大変な苦勞の末建設され、ついに昭和20年(1945)7月25日に「神奈川県農業会 相模原病院」として落成し、終戦間近の8月1日から診療を開始しました。当時は診療科5、ベッド数20、医師4名、看護婦7名だったそうです。

(2014年現在では、診療科32、ベッド数471、職員数1216名とのことです。)その後、昭和24年(1949)に「協同病院」、昭和43年(1968)に「相模原協同病院」と改称して現在に至り、身近な総合病院・救急病院として橋本地区の医療の中心的存在として頼りにされています。

## 《橋本競馬場》



(橋本競馬場跡地付近)

日露戦争の後、軍備の拡張に努めたわが国は、戦争には馬が重要だということで、馬の改良育成のための一手段として各地方で競馬を開催するようになりました。橋本でも橋本五差路の付近に広がる窪地の畑を馬場にして、大正12年(1923)5月5日に第1回目の競馬が開催されました。競馬場の周辺は幕やムシロを張って中が見えないようにし、入場券を買って場内へ入る仕組みだったそうです。駅付近の商店が出店を出して飲み物や弁当を売り、大変賑わったとのことでした。当時の馬券は1枚50銭で、馬券の売り上げは公認になった大正14年(1925)の4月2日が2200円、4月3日が6700円、最終日の4月6日が19000円とうなぎのぼりの人気でした。

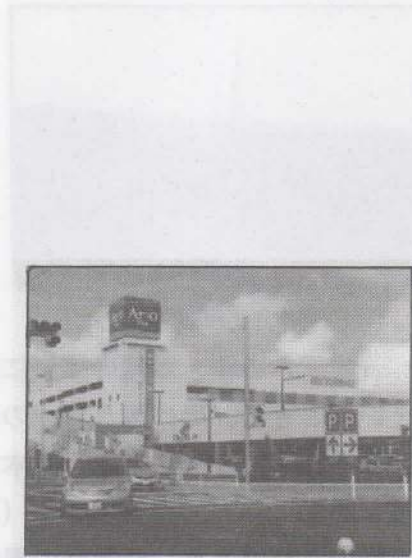
優勝馬には、のぼり旗やバケツなどの賞品が贈られたそうです。しかし、大正15年（1926）の法律改正により、橋本競馬場は藤沢競馬場に吸収合併されました。跡地は畑地に戻されましたが、窪地のため大雨のたびに水浸しになって作物があまり実らず、競馬場としての華やかな時期がうそのような有り様だったとのこと。



## 《やすらぎの道立体》



（やすらぎの道立体）



（ショッピングセンター アリオ）

東橋本方面から大山町方面に行くためには、以前は踏切を利用していましたが、この踏切は横浜線と相模線と車庫を出入りする電車がひっきりなしに通るため、待ち時間がかなり長い割に通過できる時間がと

でも短く、渡り切る前に遮断機が下りてしまうこともしばしばで、「**開かずの踏切**」として長い間利用者を悩ませてきました。(渡る時は車と歩行者・自転車・ベビーカーなどが触れそうになるほどの混雑ぶりで、とてもヒヤヒヤしたものです。)特に朝、旭中の生徒の通学時の混雑は大変なもので、PTAの当番が安全指導に立ちましたが、地域住民からの苦情がとて多かったです。これらの問題点を解消するために、平成8年(1996)に線路の下をくぐる地下道が作られ、待たされることなく安全に通行することができるようになりました。

「やすらぎの道立体」という名前は、「**歩み入る者に安らぎを 去りゆく者に幸いを**」というドイツのロマンチック街道にあるローテンブルク城のシュピタル門に、ラテン語で刻まれている銘文にちなんでつけられたそうです。





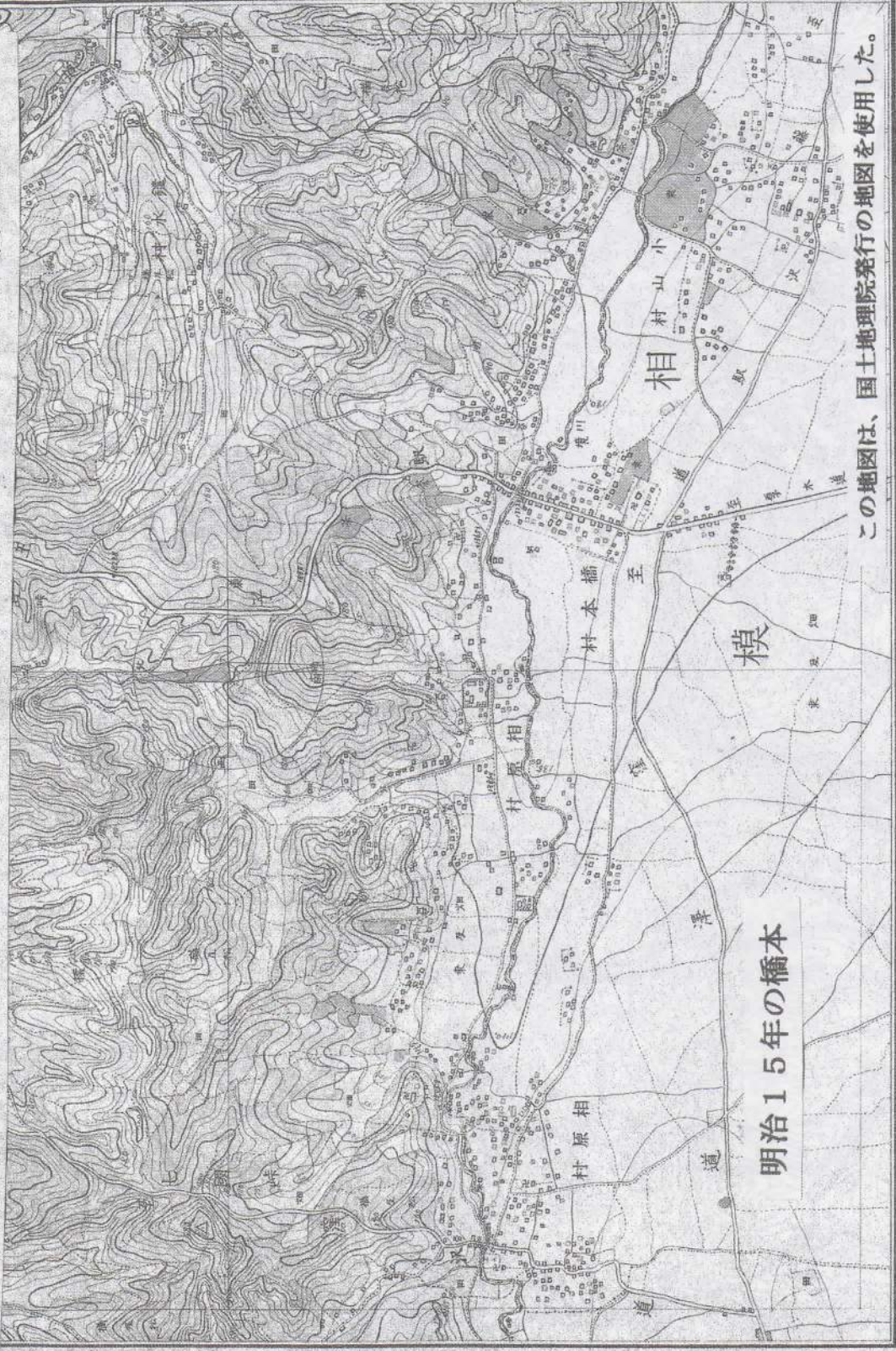
## 第3章

# 地図で見る橋本の変遷





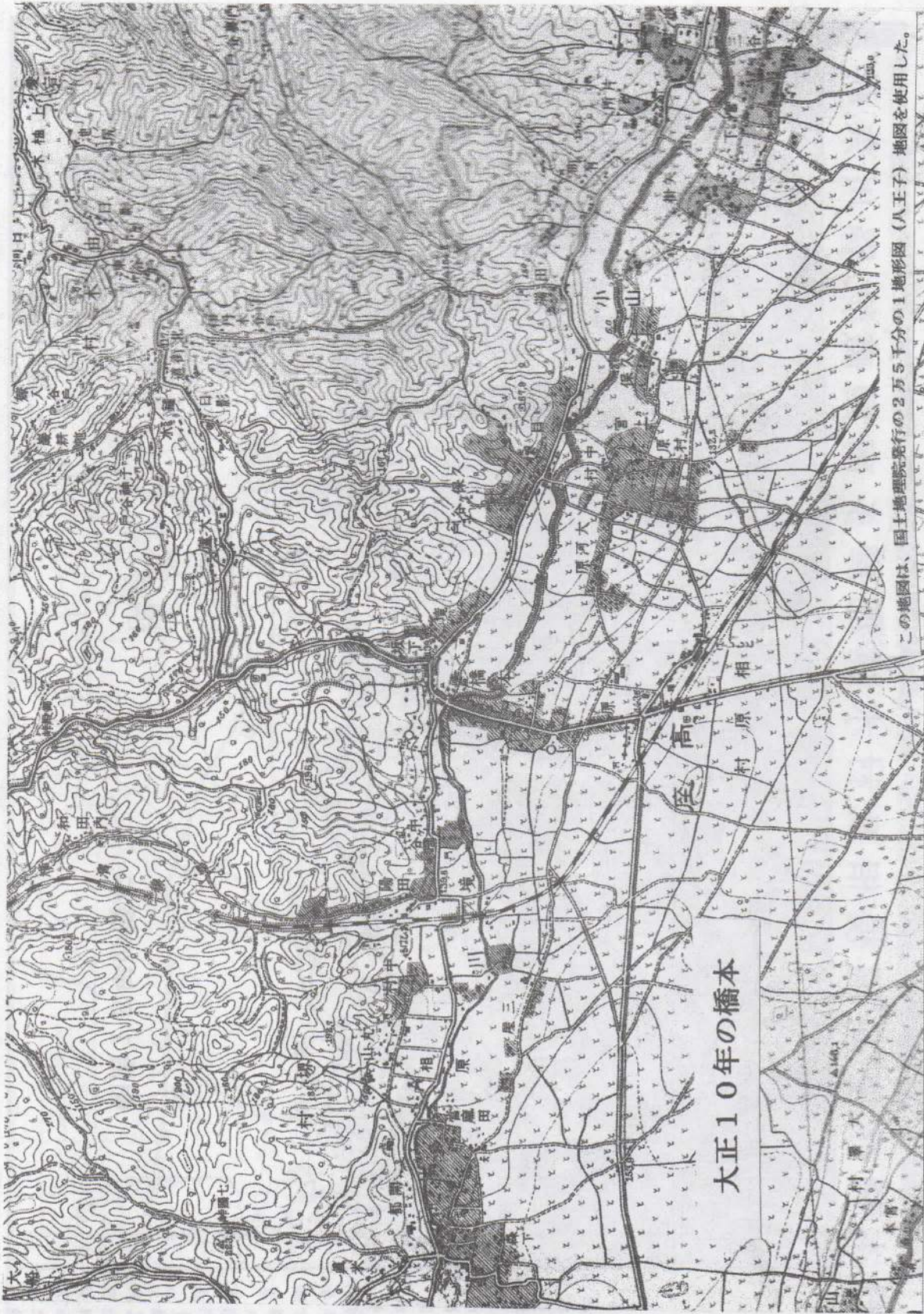
神奈川縣武藏郡摩多南國藏武縣川奈神  
 村本橋郡座高國模相及村水鍵郡摩多南國藏武縣川奈神



この地図は、国土地理院発行の地図を使用した。

明治15年の橋本

小地測量第三班部第七 測手陸軍歩兵少尉深谷又三郎  
 副手參謀本郎測量課壺池田治之祐



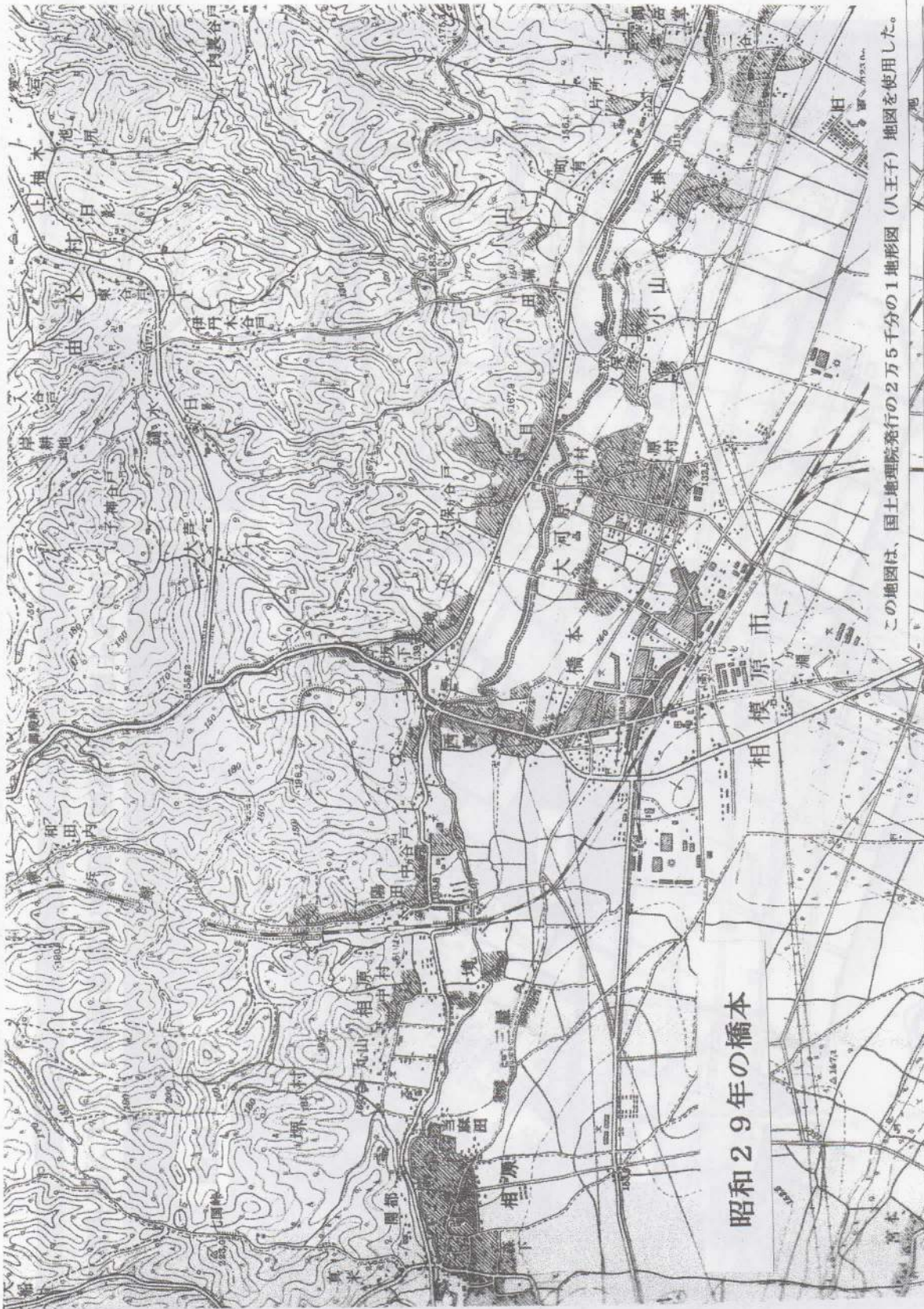
この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（八王子）地図を使用した。

大正10年の橋本



昭和14年  
軍都計画による「相模原都市建設区画整理事業予定図」





昭和29年の橋本

この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（八王子）地図を使用した。



昭和58年の橋本

この地区は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（八王子）地図を使用した。



## 昭和の初めの子ども達

農家の小学校6年生の一日の生活を追ってみました。(6月頃)

### (顔を洗う)

枕元に畳んでおいた着物を着て、まず顔を洗うため外にあるつるべ井戸に行き、水を汲み上げ水桶に入れて顔を洗います。井戸の水は、冬でも夏でも16度ぐらいの水温で夏は冷たく冬は暖かく感じます。

顔を拭くには、まだタオルがなく、手ぬぐいでした。



(挿絵・相模原市立小学校社会科副読本)

(朝のしごと) 橋本では、主な産業は、農業で養蚕、麦、陸稻、さつまいもなどで、多少牛や馬、やぎを飼っている家がありました。

食事の前に親は、朝づくり(畑の仕事など)に出ってしまうので、長男や長女は、弟や妹の面倒をみていました。

うさぎを飼っている子どもは、前日とってきた草をうさぎに与えます。

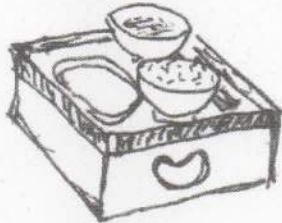
(食事) 食事には、大人も子どもも一人に一つ「箱膳」を持っていました。台所のそばに積み重ねてありました。

食事は、家族全員が揃わないと食べられませんでした。

必ず大きな声で「いただきます。」と言われ、一粒でも残すと、「神様の罰が当たる。」と叱られました。

ご飯は、お米に押し麦が半分ぐらい入っていました。

箱膳は、手前の左に茶碗、右にお椀、箸は、太い持つ方が右に、お皿は、奥へとやかましく言われました。食べ終わると茶碗にお茶をいれ箸でかき混ぜて、これを飲んでから茶碗を箱膳にしました。また、箱膳をもとの場所に積み上げて置きます。



(学校へ) 教科書やノート、弁当を肩掛けのカバンに入れていました。

1クラスは50人ぐらいで、全国どこの学校でも、男組、女組に別れていました。人数が半端だと男女組がありました。

机に座る順番は、身長順か、あいうえお順で先生によりまちまちでした。

昼食は、全員弁当を持参でアルミの弁当箱でした。梅干しが真ん中であって「日の丸弁当」とよびました。

食事のときは、当番が小使室から大きなやかんにお湯を入れ、それを運んで弁当箱のふたに注いでくれました。

授業が終わると、校庭や自分たちの教室、廊下また1年生の部屋の掃除を全員でやりました。

帰るときは、奉安殿（天皇陛下の写真が納めてある建物）に向かって一礼、校庭に向かって一礼してから門を出ました。

**(帰宅後)** 5月、6月頃は、風が強く、土ほこりがひどく、家の中まで入ってきます。帰宅後は、雑巾がけも子どもの仕事でした。農家では、長男や長女は弟や妹の子守をするのが当然で、なかなか遊ばませんでした。



うさぎを飼っていると、竹かごを持って草取りをしました。

季節によっては、子守をしながら麦踏もしたりしました。また、近くの林に行きいろりや風呂の燃料になる枯れ木を集めるのも子どもの仕事でした。

なんといっても、大変なのは、風呂の水汲みと風呂焚きでした。水道がないので井戸から風呂場まで水を運ばなければなりません。そして、風呂がまに火を付けますがなかなか火が付かず大変でした。

風呂に入る順番は、お年寄りのおじいちゃんからで、お父さん、子どもで最後はお母さんでした。

**(夕飯)** 夕飯は、ほとんどうどんでした。

うどんを作るのには、大人が小麦粉をこねて、それを板の上に乗せて、布をかぶせて、その上に子ども乗って足で何度も、何度も踏みました。最後に大人が、麺棒で薄く伸ばして切ります。

うどんの幅が広いので、「ひもかわ」と呼んでいました。うどん汁の中は、季節の野菜がたっぷりはいっていました。

だしには、煮干しを入れました。時には、豚のもつが入った時などは、子ども達は「肉入りうどん」と大喜びで食べました。



**(寝るとき)** 夏は、蚊に刺されないように部屋一杯に「蚊帳」(かや)をつりました。冬は、「かいまき」という着物のような形の綿の入った掛布団で、男の子は兄弟か父と、女の子は姉妹か母と一緒に寝たものです。

**(その頃の食べ物)** 当時のご飯のおかずは、冷蔵技術も未発達で、魚と言えば丸干しイワシ、サンマの開き、身欠きにしんなど干物で、特に、サンマの取れる時期には、八王子からリヤカーで魚を売りに来る行商人もいました。

もの日(祝日や誕生日など)には、ご飯には、麦の代わりに小豆を入れて炊いたり、家によっては、必ず1日と15日にこの小豆ご飯を炊く家もありました。

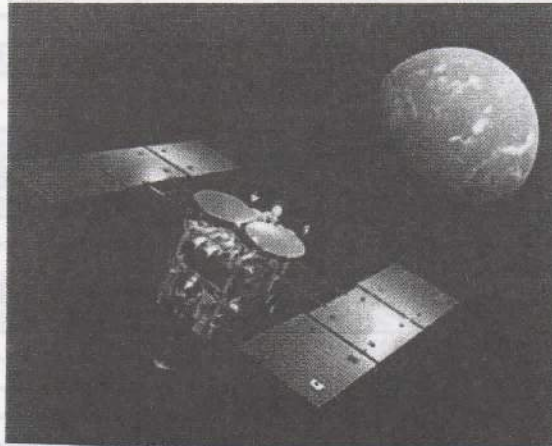
★取材に協力戴いた方 柚木栄司さん 矢島栄さん

年表(橋本周辺を中心に・・・)

元号	西暦	橋本周辺のできごと	日本のできごと	世界のできごと
明治	22	1889 相原・橋本・小山・清兵衛新田の4村が合併し、高座郡相原村となる。	大日本帝国憲法公布	
	36	1903 橋本郵便局開局 旭小学校開校		ライト兄弟が飛行機を発明
	37	1904	日露戦争開戦	
	41	1908 横浜鉄道(現JR横浜線)開通 橋本駅開業		
大正	6	1919 橋本付近、電灯点火	パリ講和条約締結	
	12	1923 県立「農蚕学校(現県立相原高校)」開校 橋本変電所開所	関東大震災	
昭和	5	1930 県立農蚕学校を県立相原農蚕学校と改称		
	6	1931 相模鉄道線(現JR相模線)開通	満州事変勃発	
	14	1939		第2次世界大戦勃発
	16	1941 横浜線全線電化 相模原町誕生	太平洋戦争開戦	独ソ戦争開始
	20	1945 神奈川県農業会病院(現相模原協同病院)開院	太平洋戦争終戦	ヤルタ会談、ポツダム宣言 国際連合成立
	22	1947 旭中学校開校	6・3・3・4制教育 始まる	インド・パキスタン独立
			日本国憲法施行	
	24	1949	湯川秀樹氏ノーベル賞	
	25	1950 橋本公民館が旭小内にできる 第1回町民運動会 開催(旭小にて)	金閣寺が放火される	中華人民共和国成立 朝鮮戦争始まる
	26	1951 各地に自治会が結成される	サンフランシスコ講和条約 日米安保条約締結	
	27	1952 第1回橋本七夕まつり 開催	ヘルシンキオリンピックに 戦後初参加	
	28	1953	NHKがテレビ放送開始	
	29	1954 相模原市施行 人口8万人強	保安隊が自衛隊になる	
	34	1959 県立相原高等学校に改称	皇太子殿下、美智子様 ご成婚	
			伊勢湾台風	
	35	1960 旭小で給食開始 相模原市の人口が10万人に	浅沼委員長刺殺 安保反対運動が激化	アフリカの植民地多数独立
	36	1961 橋本大山工業団地造成		ソ連初有人宇宙飛行成功
	37	1962 市消防橋本分署設置	国産の原子炉が点灯	キューバ危機
	38	1963 かなりや児童館(現はしもとこどもセンター の場所)開館 橋本自動車学校 開校 市農協旭支所開業	三井三池炭鉱爆発事故 黒四ダム完成 米とテレビ中継成功	米ケネディ大統領暗殺
	39	1964	東京オリンピック 東海道新幹線開通	
	40	1965 城山ダムが完成し津久井湖誕生		米、ベトナム戦争開始
	41	1966		中国、文化大革命
	43	1968 市の木一けやきに決定		
	44	1969		アポロ11号月面着陸
	45	1970 イーヨーカ堂開店 市北部清掃工場設置	日本万博開催 日航機よど号事件	日中国交回復
	47	1972	沖縄返還実現 あさま山荘事件	
	49	1974 橋本小学校 開校 橋本保育園(現りんご保育園の場所)開園 市の花アジサイ、市の鳥一ひばりに決定		

元号	西暦	橋本周辺のできごと	日本のできごと	世界のできごと
51	1976	旭小学校木造旧校舎火災にあう		周恩来、毛沢東没
51	1976	橋本公民館、橋本出張所完成	ロッキード事件で	ロッキード事件
		市立図書館開館	田中首相逮捕	
		ユニー開店		
52	1977	第1回ふるさとまつり 開催	日中平和友好条約 調印	
53			成田空港開港	
54	1979	宮上小学校 開校		イラン・イラク戦争開戦
55	1980	橋本駅南口開設	モスクワオリンピック不参加	ソ連アフガニスタンへ侵攻
		横浜線の複線化完了(市内)		
56	1981	あじさい会館オープン		
		市立総合体育館オープン		
		ひばり放送開始		
57	1982	橋本駅北口広場整備完了	ホテルニュージャパン火災	フォークランド紛争
58	1983		東京ディズニーランド開園	
60	1985	国道16号八王子バイパス開通	日航ジャンボ機墜落	
61	1986			チェルノブイリ原発事故
62	1987	相模原市 人口50万人に	国鉄民営化JRIになる	
		相模川ふれあい科学館オープン		
63	1988	古淵駅開業	消費税実施(3%)	
平成元年	1989		昭和天皇崩御	天安門事件 ベルリンの壁崩壊
2	1990	京王相模原線開通	雲仙普賢岳大噴火	米ソ冷戦終結
		グリーンホール相模大野オープン		東西ドイツ統一
3	1991	JR相模線 電化完了		湾岸戦争
		銀河アリーナオープン		ソ連邦解体
4	1992	グリーンウェーブ相模原'92開催	毛利衛さん日本人初 スペースシャトルで宇宙へ	
5	1993		皇太子殿下、雅子様 ご成婚	
6	1994	橋本こどもセンター開館	松本サリン事件	
7	1995	市立博物館開館	阪神淡路大震災発生	金日成主席 没
			地下鉄サリン事件	
			公立学校第2第4土曜日 休日実施	
8	1996	相模川自然の村オープン		
		橋本郵便局が西橋本にオープン		
		橋本五差路地下道一部開通		
9	1997	さがみはらグリーンプールオープン	消費税5%になる	香港が中国に返還される
		市内全小中学校に図書整理員配置		
		西橋本地下道開通		
10	1998	かながわ・ゆめ国体開催	冬季オリンピック	
		電話番号が0427から042へ	長野大会開催	
		橋本五差路立体道路開通	和歌山毒入りカレー事件	
		サン・エールさがみはらオープン		
		相模原北の丘センター(プール)オープン		
11	1999		東海村原発臨界事故	
12	2000	ビブレ6階(現イオン)にシティプラザはしもと (公民館・出張所他)オープン	三宅島大噴火	
		相模原市 人口60万人に		
		橋本五差路地下道全面開通		
13	2001	ミウイはしもとオープン		米 同時多発テロ
		社のホール橋本、橋本図書館オープン		
		第50回橋本七夕まつり		

元号	西暦	橋本周辺のできごと	日本のできごと	世界のできごと
14	2002		サッカーワールドカップ 日韓共同開催 公立学校完全週5日制へ 北朝鮮の拉致被害者 5名帰国	ユーロ流通開始
15	2003	中核市へ移行	日本産トキ絶滅	米英軍イラクを攻撃
16	2004	市制50周年	野口聡一さん宇宙へ JR宝塚線脱線事故 愛知万博	
17	2005			フセイン大統領処刑
18	2006	津久井町と相模湖町と合併		
19	2007	城山町と藤野町を編入。新相模原市へ 新相模原市の人口 70万人強に	郵政民営化	
20	2008	政令指定都市移行に向けて行政区画 の編成案が決まる。 横浜線開通100周年	秋葉原事件	北京オリンピック
21	2009		新型インフルエンザ大流行 民主党政権発足	米大統領にオバマ氏就任 マイケル・ジャクソン死亡
22	2010	4月に政令指定都市になり、3区に分かれる 大型ショッピングセンター、アリオ開店	宮崎県で口蹄疫大流行 はやぶさが7年ぶりに帰還	サッカーワールドカップで 日本チームベスト16になる
23	2011	東日本大震災の影響で計画停電実施 相模線開業90周年	東日本大震災発生 台風12、15号で大きな被害	なでしこジャパン世界一に
24	2012	緑区マスコットがミウルに決まる	金環日食 東京スカイツリー開業 自民政権に戻る	ロンドンオリンピック
25	2013	緑区合同庁舎開庁		アルジェリア人質事件 グアム島無差別殺傷事件 ロシアに隕石落下
26	2014	市制60周年 リニアの着工決まる 相模原総合補給廠の一部が返還される 相模原市のマスコットがさがみんに決まる	消費税8%に 郵便料金値上げ 富岡製糸場世界遺産へ 広島で大きな土砂災害 御嶽山噴火で大きな被害 はやぶさ2打ち上げ	ソチオリンピック 韓国旅客船沈没事故





## 《引用・参考文献》

- ・「相模原市史 1～6巻」相模原市
- ・「相模原市史 現代図録編」相模原市
- ・「相模原市今昔写真帖」相模原市
- ・「境川流域ガイド」相模原市
- ・「私たちの相模原・社会科読本」(中学校)相模原市教育委員会
- ・「さがみはら・社会科読本」(小学校)相模原市教育委員会
- ・「さがみはらの地名・村をつなぐ道・坂・川」相模原市教育委員会
- ・「さがみはら風土記稿・神社編」相模原市教育委員会
- ・「さがみはら風土記稿・寺院編」相模原市教育委員会
- ・「相澤日記・続相澤日記・増補相澤日記」(相澤菊太郎著、相澤栄久編)
- ・「橋本の昔話」加藤重夫著
- ・「橋本七夕まつり50周年記念誌・願い」橋本七夕まつり記念誌委員会
- ・「相模原市立博物館 常設展示解説書」相模原市立博物館
- ・「目で見る相模原の100年」金井利平・神崎彰利監修
- ・「橋本遺跡 1～5集」相模原市橋本遺跡調査会
- ・「相原高等学校創立八十周年記念誌」
- ・「旭中学校創立50周年記念誌」
- ・「旭小学校創立百周年記念誌」
- ・「橋本小学校創立10・20・30・35周年記念誌」
- ・「わたしたちのまち・みやかみ」(宮上小学校創立10周年記念誌)
- ・「橋本一・二丁目 西橋本自治会のあゆみ」前田康之編
- ・「小山の昔語り」小山公民館HP
- ・「相模原百景」吉川啓示著
- ・「橋本郷土カルタ」橋本郷土カルタを作る会

## 《資料・取材に協力を戴いた方々(五十音順・敬称略)》

- ・相澤直樹 市川明子 牛久保政宏 大籠さち江 小澤治子
- ・小山好一氏夫人 原照司 矢島栄 柚木栄司 和田邦春
- ・香福寺 瑞光寺 蓮乗院
- ・相原高等学校 旭中学校 橋本小学校 橋本こどもセンター

〈論文書考・撰述〉

- 市原町誌「巻一〜」(支那原町誌)
- 市原町誌「橋本町力史 支那原町誌」
- 市原町誌「津貝平吉市原町誌」
- 市原町誌「(ト)支那原町誌」
- 会員有志者市原町誌(昭和4年)「本郷村史書・原郷町のよき地」
- 会員有志者市原町誌(昭和4年)「本郷村史書・よき地を築く」
- 会員有志者市原町誌「(八)郷・郷のよき地・よき地を築く」
- 会員有志者市原町誌「(九)郷・郷のよき地を築く」
- 会員有志者市原町誌「(十)郷・郷のよき地を築く」
- (個人発刊)「香取大橋町誌」(香取町誌部・香取町誌部・香取町誌部)
- 香取大橋町誌「(香取の町誌)」
- 会員有志者市原町誌「(香取)郷・郷のよき地を築く」
- 香取町立市原町誌「(香取町立市原町誌部 香取町立市原町誌部)」
- 香取町立市原町誌「(香取町立市原町誌部 香取町立市原町誌部)」
- 会友有志者市原町誌「(香取)郷・郷のよき地を築く」
- 香取町立市原町誌「(香取)郷・郷のよき地を築く」

★ 発行 平成27年3月

★ 編集 橋本の歴史を知る会

関根 和行・井上 堅一・廣澤 英雄・金山 勝郎・岸川 栄子  
阿部 明子・田中 勝年・矢島 祐一・石井美佐子・乾 照夫  
小川 博・落合 益美・河内 孝裕・久保 昇・齋藤 チイ  
鈴木 英世・豊田 恭平・南部トミ子

「事務局」 相模原市緑区橋本3-5-2 (関根宅)

電話 (042)-773-3151

★ 協力 橋本公民館

会員を募集しています。

- ・橋本の歴史を知りたい、歴史に興味を持つ人の集まりの会です。
- ・月1回の定例会を開催し、時には現地を訪ねたりしています。



このガイドブックは、相模原市の「地域活性化事業交付金」を受けて作りました